

1. 環境問題に関する意識について（問 1）

1-1 近年の環境の状況についての実感(問 1-1)

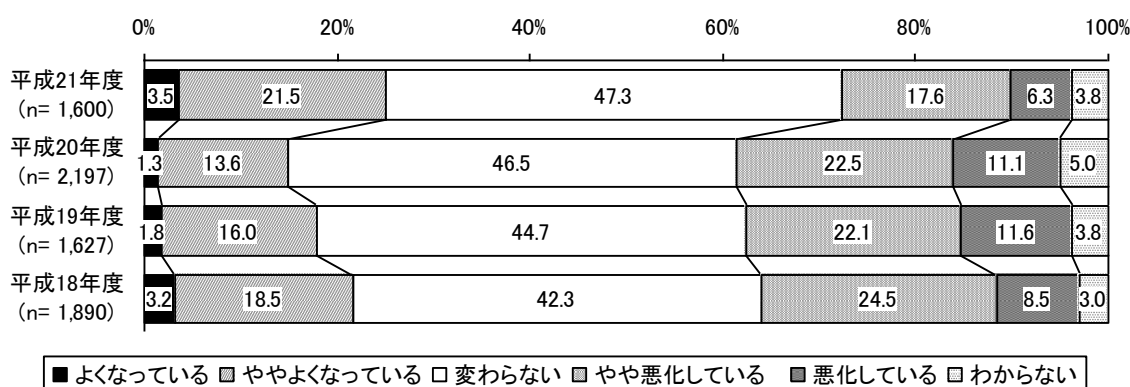
地域レベル、国レベルでは環境の状況がよくなっていると実感する割合の増加がみられた。地球レベルでは、悪化していると実感する割合が72%と高いままとされている。

近年の環境の状況についての実感について尋ねた結果、「よくなっている」と実感している人の割合（「よくなっている」と「ややよくなっている」の合計）は、地域レベルで25%と平成20年度調査よりも10ポイント上昇、国レベルで18%と7ポイント上昇した。

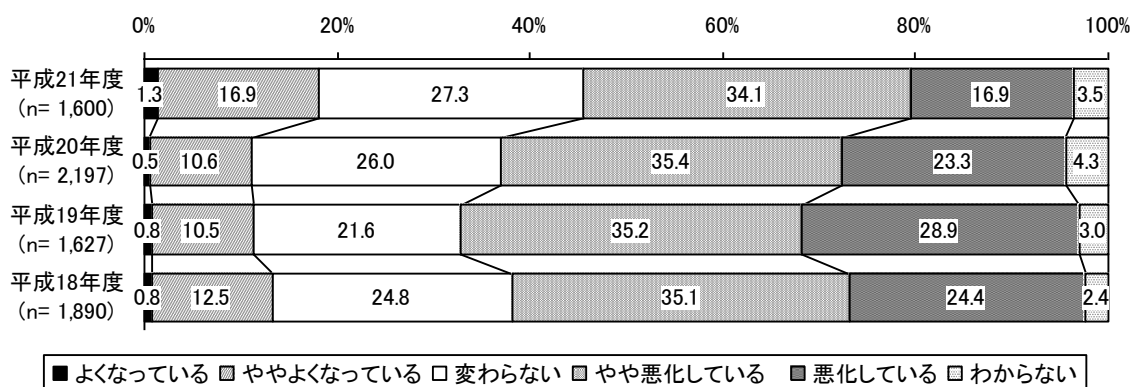
一方、地球レベルでは「悪化している」と実感している人の割合（「悪化している」と「やや悪化している」の合計）が72%と平成20年度調査と同程度であり地球レベルでの環境の悪化を問題視していることが想定される。

図表 1-1 近年の環境の状況についての実感

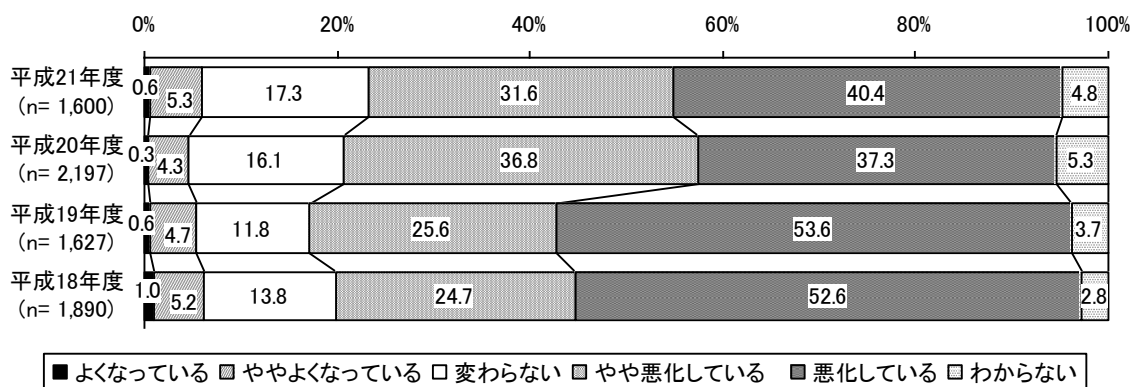
地域レベル



国レベル



地球レベル



(1) 地域レベルの環境の状況についての実感

地域レベルでは 47%の人が変わらないと実感している。悪化していると実感しているのは全体の 24%で、職業別では農林漁業が高い。

地域レベルの環境の状況について「よくなっている」と実感している人の割合は 25%、「悪化している」と実感している人の割合は 24%となっている。

性別では、大きな差はみられない。

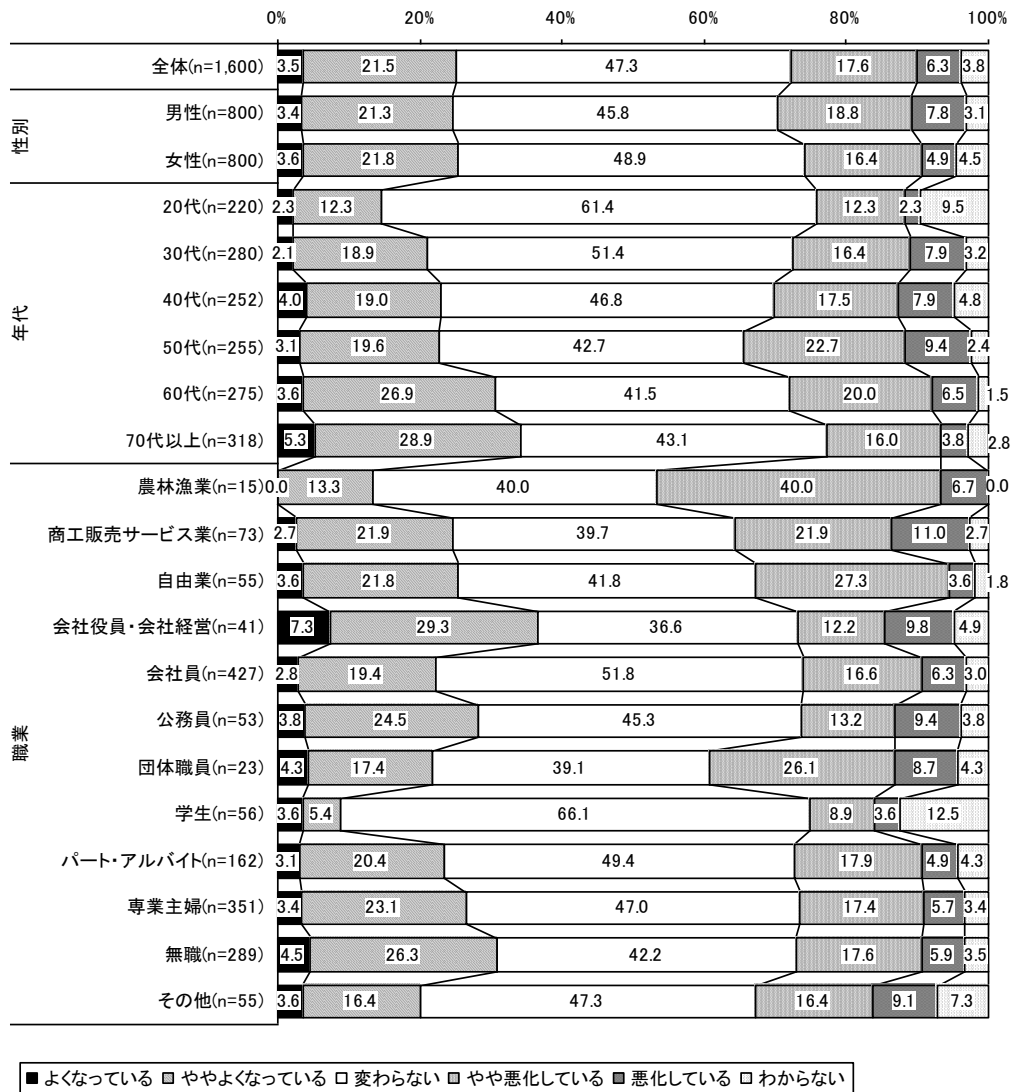
年代別では、「よくなっている」と実感している人の割合は、20代が 15%と低く、年代が高くなるにつれて割合が高くなる傾向がみられ、70代以上で 34%となっている。一方、「悪化している」と実感している人の割合は、50代が 32%と最も高く、20代が 15%と低くなっている。

職業別では、「よくなっている」と実感している人の割合は、「会社役員・会社経営」が 37%と高く、反対に「悪化している」と実感している人の割合は、「農林漁業」が 47%と高くなっている。

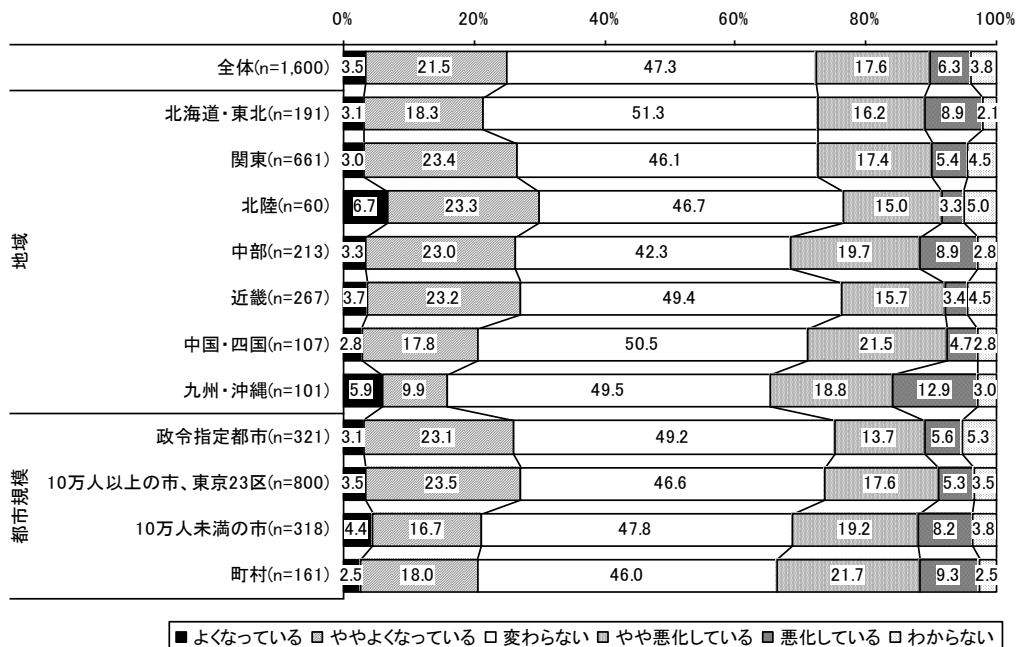
地域別では、「よくなっている」と実感している人の割合が高いのは、北陸で 30%となっている。一方「悪化している」と実感している割合が高いのは、九州・沖縄で 32%となっている。

都市規模別では、政令指定都市、10万人以上の市、特別区では「よくなっている」と実感する人の割合が比較的高く、10万人未満の市、町村では「悪化している」と実感している人の割合が比較的高い。

図表 1-2 地域レベルの環境の状況についての実感（性別、年代別、職業別）



図表 1-3 地域レベルの環境の状況についての実感（地域別、都市規模別）



(2) 国レベルの環境の状況についての実感

国レベルでは51%の人が悪化している実感しており、職業別では団体職員、農林漁業、地域別では九州・沖縄の割合が高い。

国レベルの環境の状況について「よくなっている」と実感している人の割合は18%、「悪化している」と実感している人の割合は51%となっている。

性別では、大きな差はみられない。

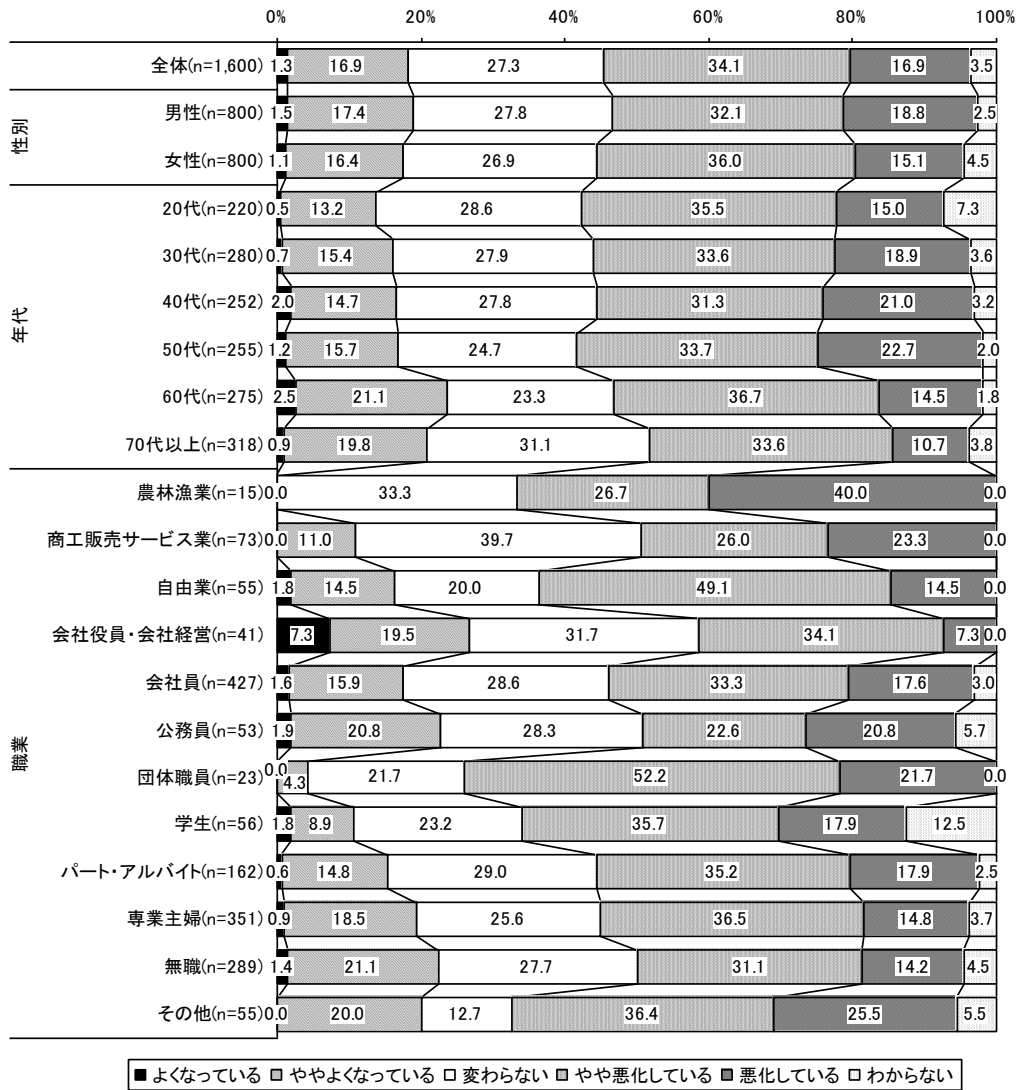
年代別では、「よくなっている」と実感している人の割合は、60代で24%と比較的高く、「悪化している」と実感している人の割合は、50代が56%と高くなっている。

職業別では、「よくなっている」と実感している人の割合は、「会社役員・会社経営」が27%と高く、また「悪化している」と実感している人の割合は、「団体職員」が74%と最も高くなっている。

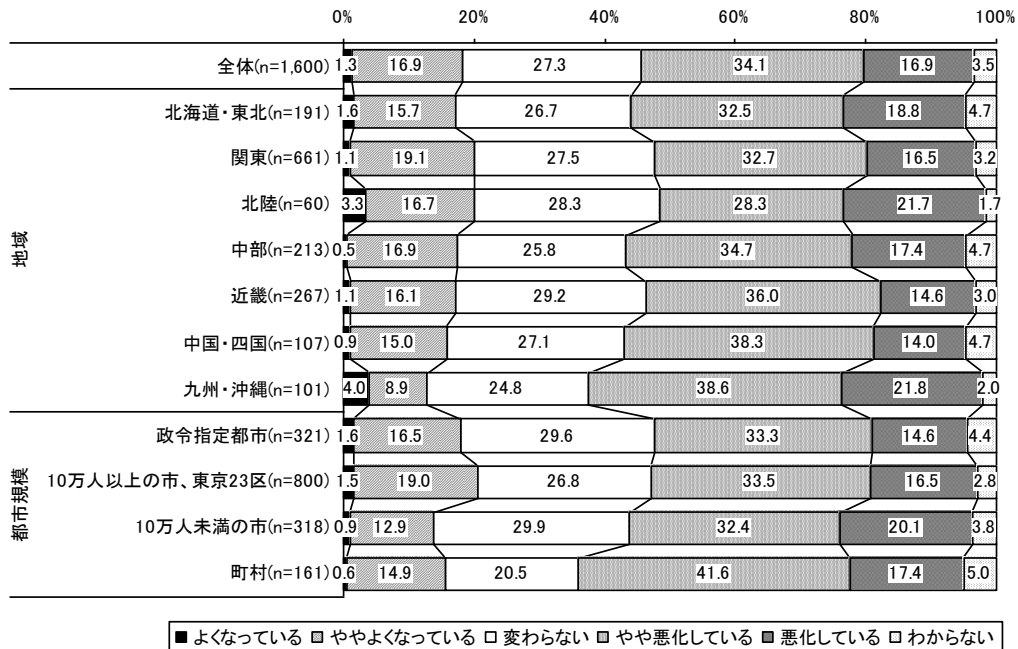
地域別では、関東と北陸で「よくなっている」と実感している人の割合が比較的高くなっている。九州・沖縄では「悪化している」と実感している人の割合が60%と高くなっている。

都市規模別では、町村で「悪化している」と実感している人の割合が59%と最も高くなっている。

図表 1-4 国レベルの環境の状況についての実感（性別、年代別、職業別）



図表 1-5 国レベルの環境の状況についての実感（地域別、都市規模別）



(3) 地球レベルの環境の状況についての実感

地球レベルでは、72%の人が悪化していると実感している。職業別では団体職員、自由業、地域別では九州・沖縄が高くなっている。

地球レベルの環境の状況について「よくなっている」と実感している人の割合は6%、「悪化している」と実感している人の割合は72%となっており、地域レベル、国レベルよりも環境の悪化を感じている人が多い傾向がみられる。

性別では、大きな差はみられない。

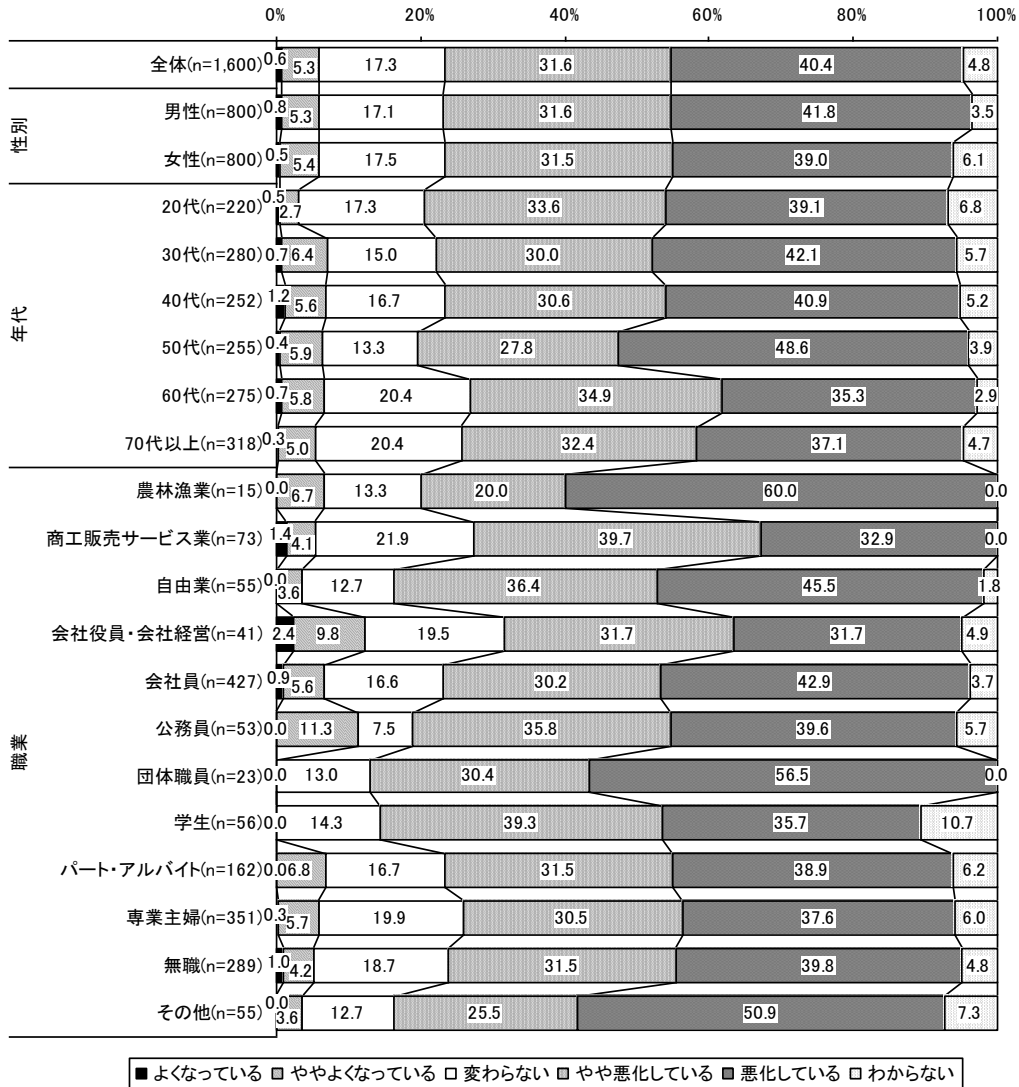
年代別では、「よくなっている」と実感している人の割合は、20代で3%と低い但他的年代と大きな差はみられない。「悪化している」と実感している人の割合は、50代が76%と高く、60代、70代以上は若干低くなっている。

職業別では、「悪化している」と実感している人の割合は、「団体職員」87%、「自由業」82%、「農林漁業」80%と高くなっている。

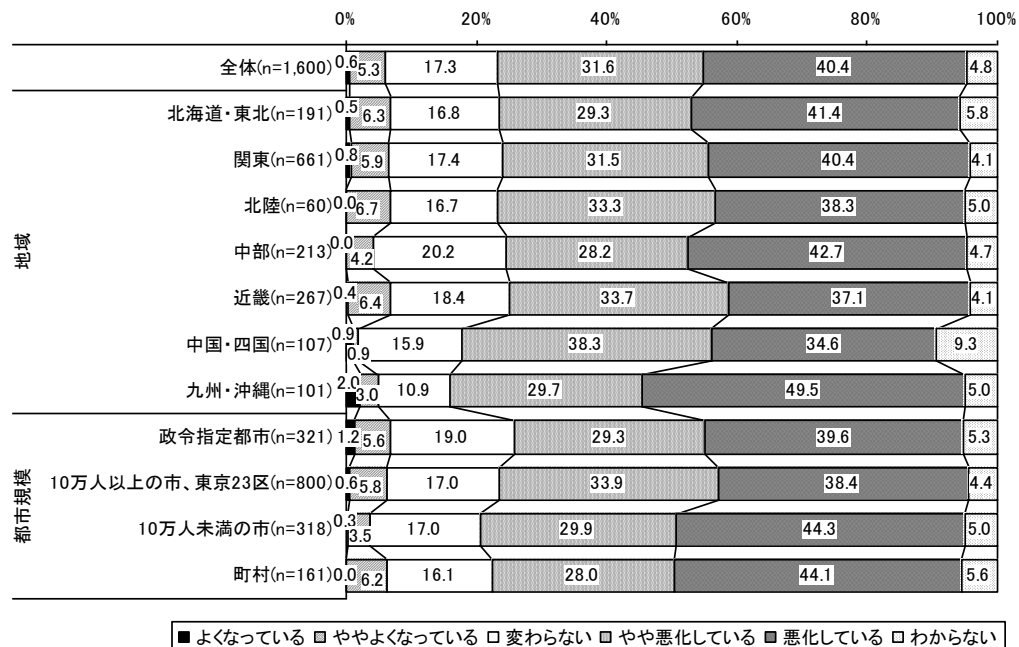
地域別にみると、九州・沖縄が「悪化している」と実感している人の割合が79%と高いが、他の地域も70%以上と高くなっている。

都市規模別にみると、大きな差はみられない。

図表 1-6 地球レベルの環境の状況についての実感（性別、年代別、職業別）



図表 1-7 地球レベルの環境の状況についての実感（地域別、都市規模別）



1-2 近年の環境悪化を実感する理由(問 1-2)

環境悪化を実感する理由は、地域レベルでは身近にある自然の減少、国レベルではヒートアイランド現象の増加、地球レベルでは地球温暖化と回答した人が多い。

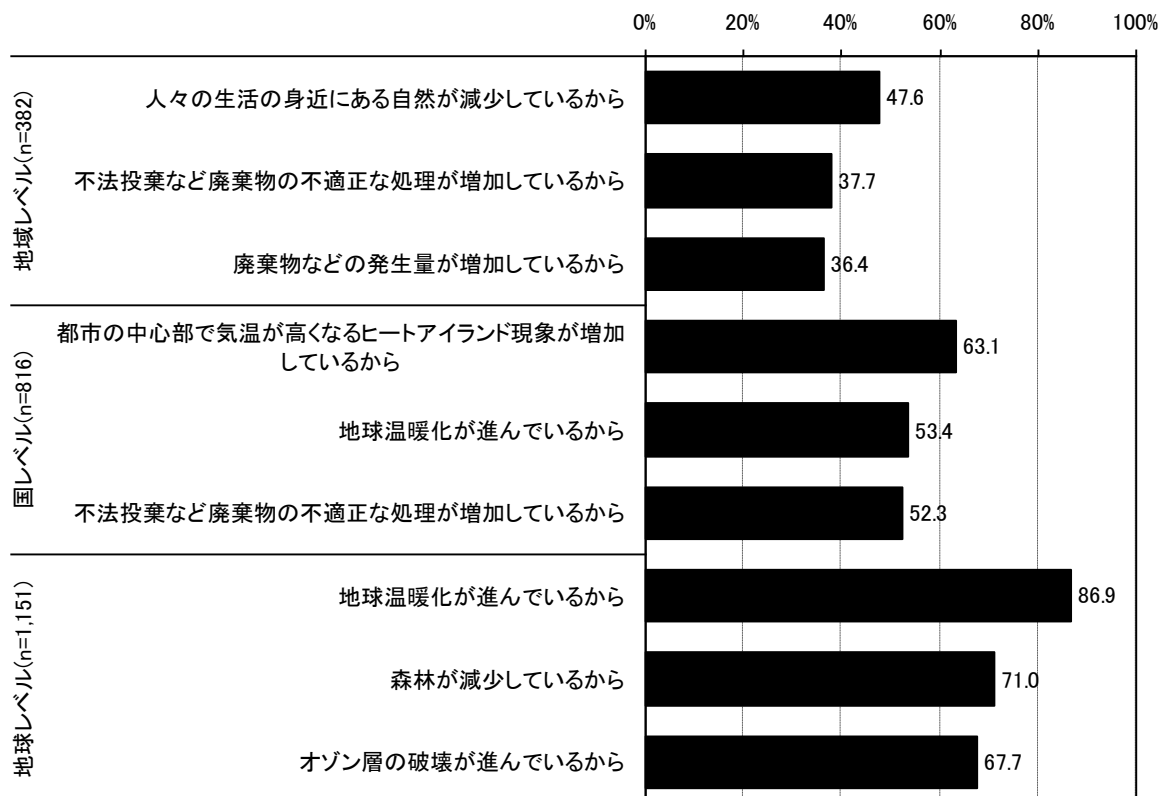
近年の環境の状況について「やや悪化している」「悪化している」と回答した人に、地域レベル、国レベル、地球レベルに分けて環境悪化を実感する理由を尋ねた。

地域レベルでは、「人々の生活の身近にある自然が減少しているから」が最も割合が高く 48%、次いで「不法投棄など廃棄物の不適正な処理が増加しているから」38%、「廃棄物などの発生量が増加しているから」36%となっている。

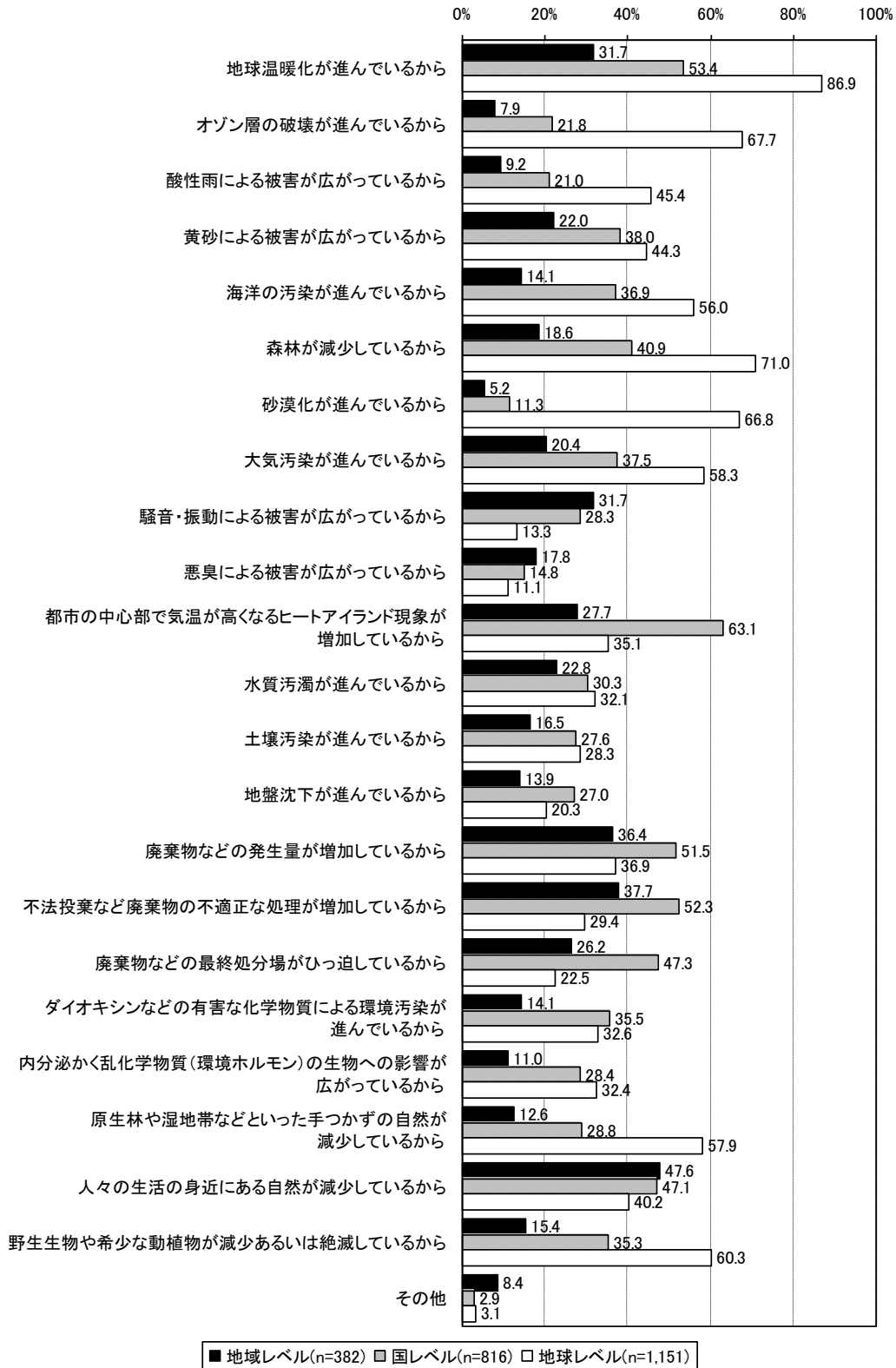
国レベルでは、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が増加しているから」63%、次いで、「地球温暖化が進んでいるから」53%、「不法投棄など廃棄物の不適正な処理が増加しているから」52%となっている。

地球レベルでは、「地球温暖化が進んでいるから」87%、次いで「森林が減少しているから」71%、「オゾン層の破壊が進んでいるから」68%となっている。

図表 1-8 近年の環境悪化を実感する理由（各レベル別上位 3 項目）



図表 1-9 近年の環境悪化を実感する理由



(1) 地域レベルの環境悪化を実感する理由

地域レベルの環境の状況についての実感について「やや悪化している」「悪化している」と回答した人に、環境悪化を実感する理由を尋ねたところ、「人々の生活の身近にある自然が減少しているから」が最も割合が高く 48%、次いで「不法投棄など廃棄物の不適正な処理が増加しているから」38%、「廃棄物などの発生量が増加しているから」36%となっている。

性別でみると、「大気汚染が進んでいるから」「土壌汚染が進んでいるから」「不法投棄など廃棄物の不適正な処理が増加しているから」で女性が男性よりも 5 ポイント以上高く、「地球温暖化が進んでいるから」「黄砂による被害が広がっているから」では男性が女性よりも 5 ポイント以上高くなっている。

年代別では、多くの項目で 70 代以上の割合が高くなっており、70 代以上の人の関心の高さがうかがえる。

職業別では母数が少ない属性があり、誤差が大きいことが予想されるため、コメントは控える。
地域別では、全体よりも 15 ポイント以上高くなっている地域と項目は下記となっている。

北海道・東北：「不法投棄など廃棄物の不適正な処理が増加しているから」 58%

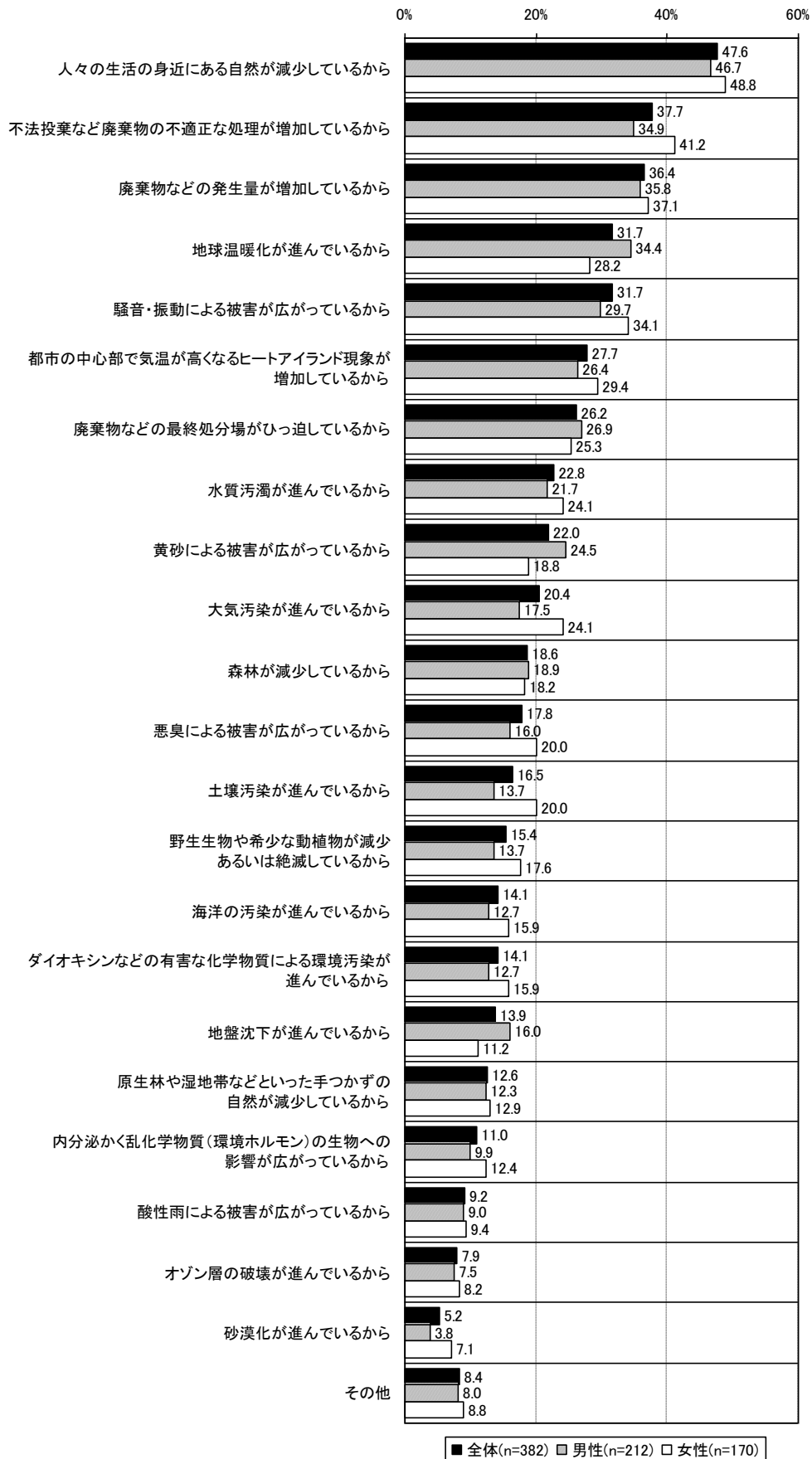
「廃棄物などの発生量が増加しているから」 50%

北陸：「黄砂による被害が広がっているから」 64%

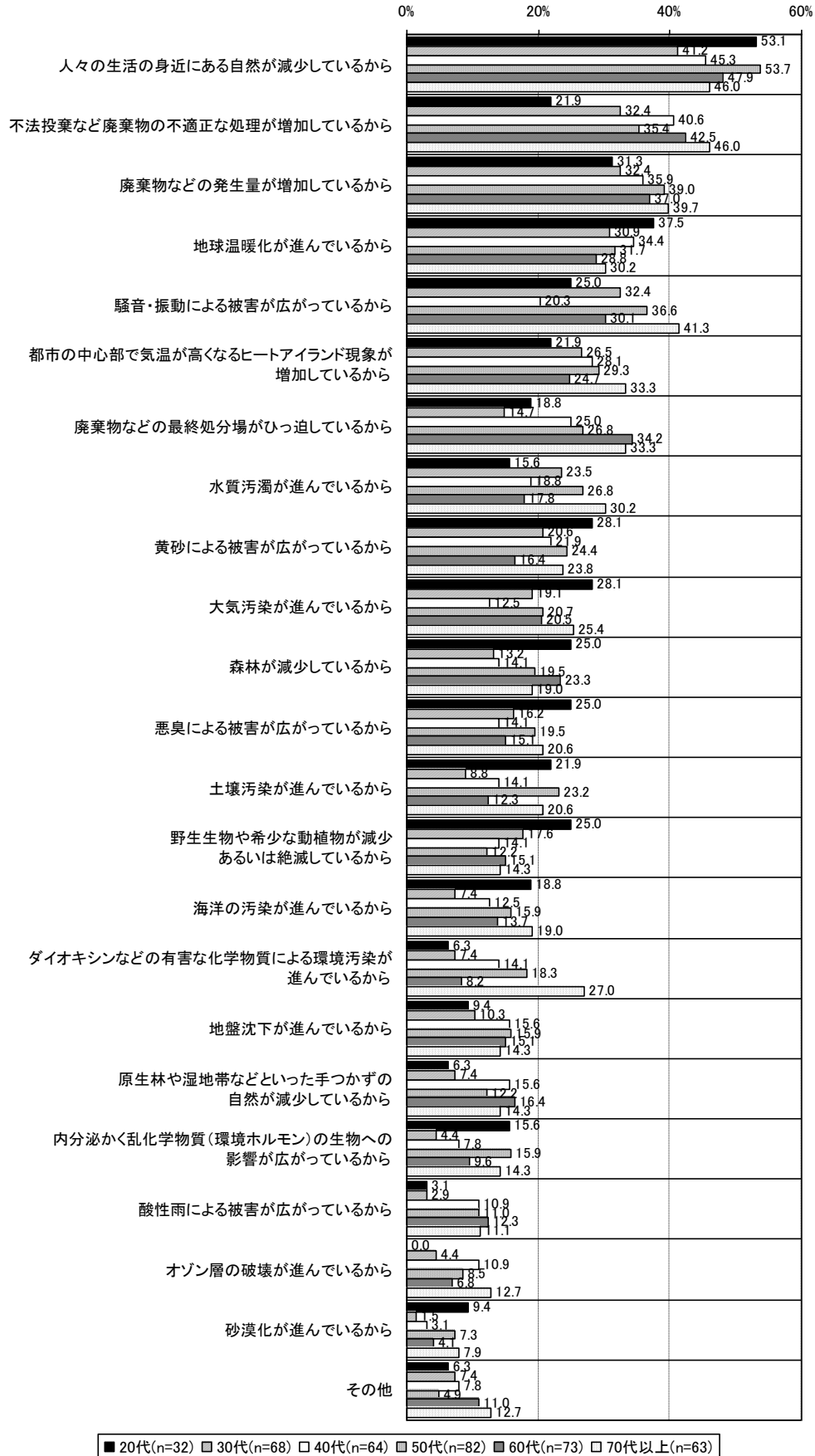
近畿：「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が増加しているから」 47%

都市規模別では、政令指定都市で「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が増加しているから」40%、「騒音・振動による被害が広がっているから」39%と他の都市規模と比べて高くなっている。

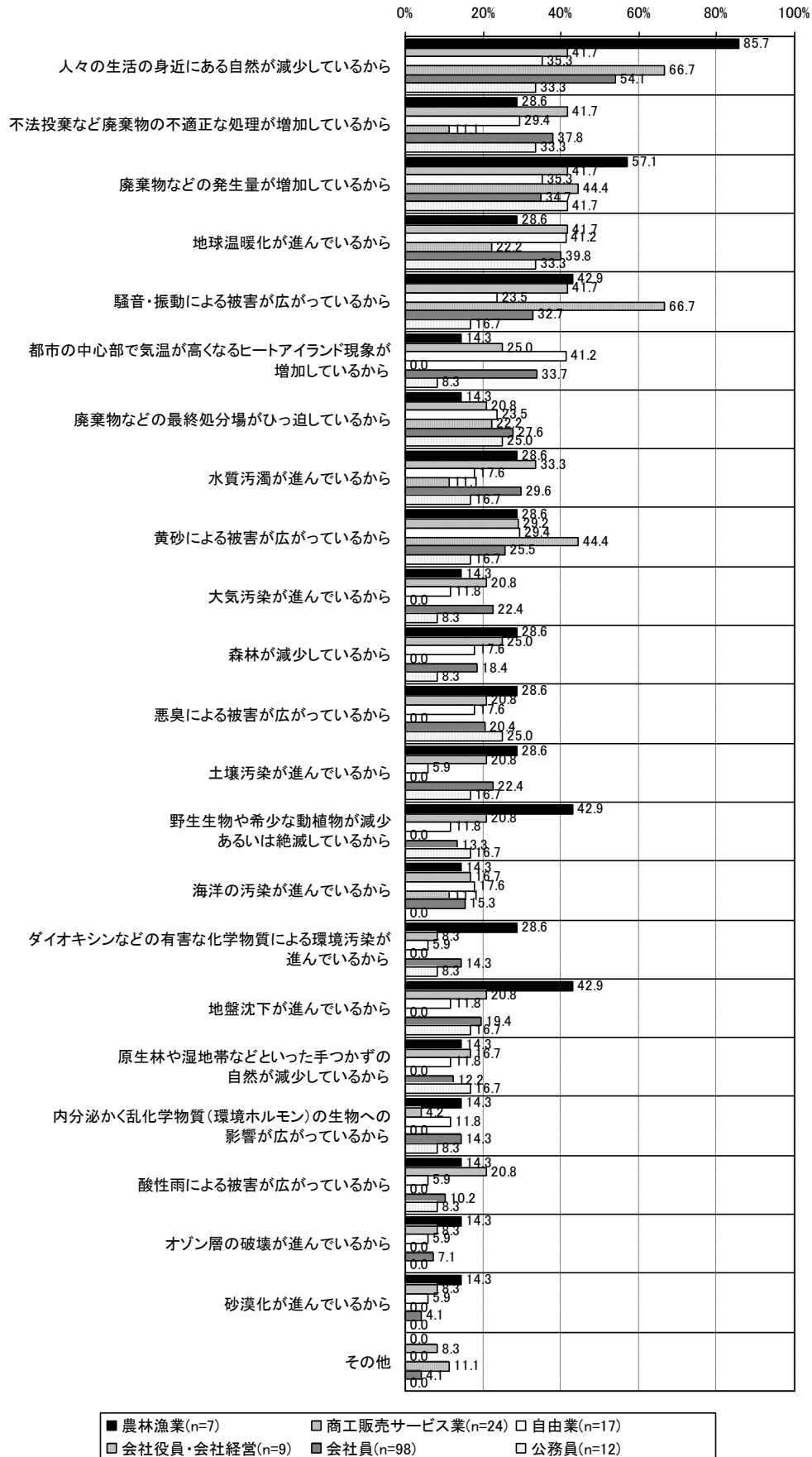
図表 1-10 地域レベルの環境悪化を実感する理由（全体、性別）



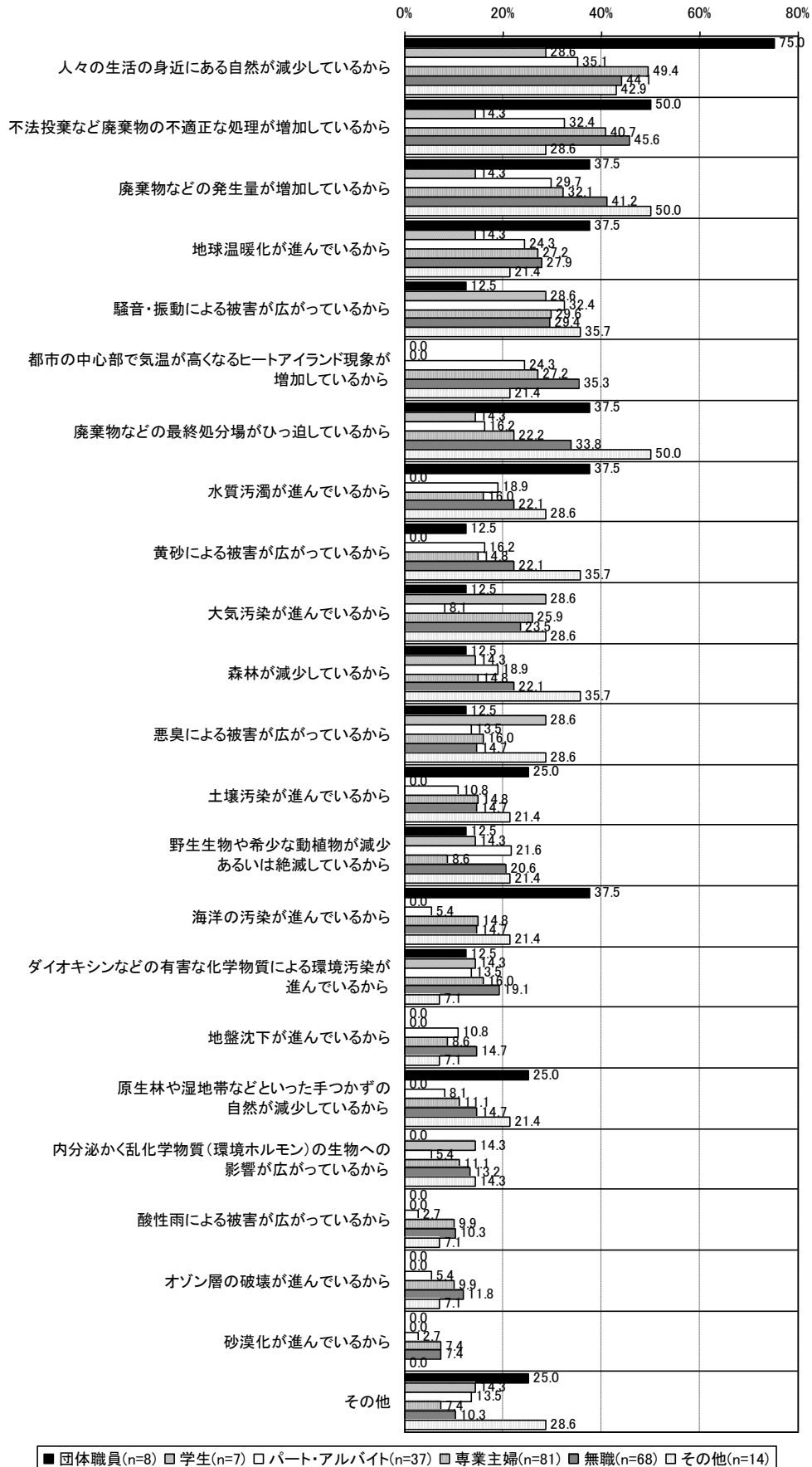
図表 1-11 地域レベルの環境悪化を実感する理由（年代別）



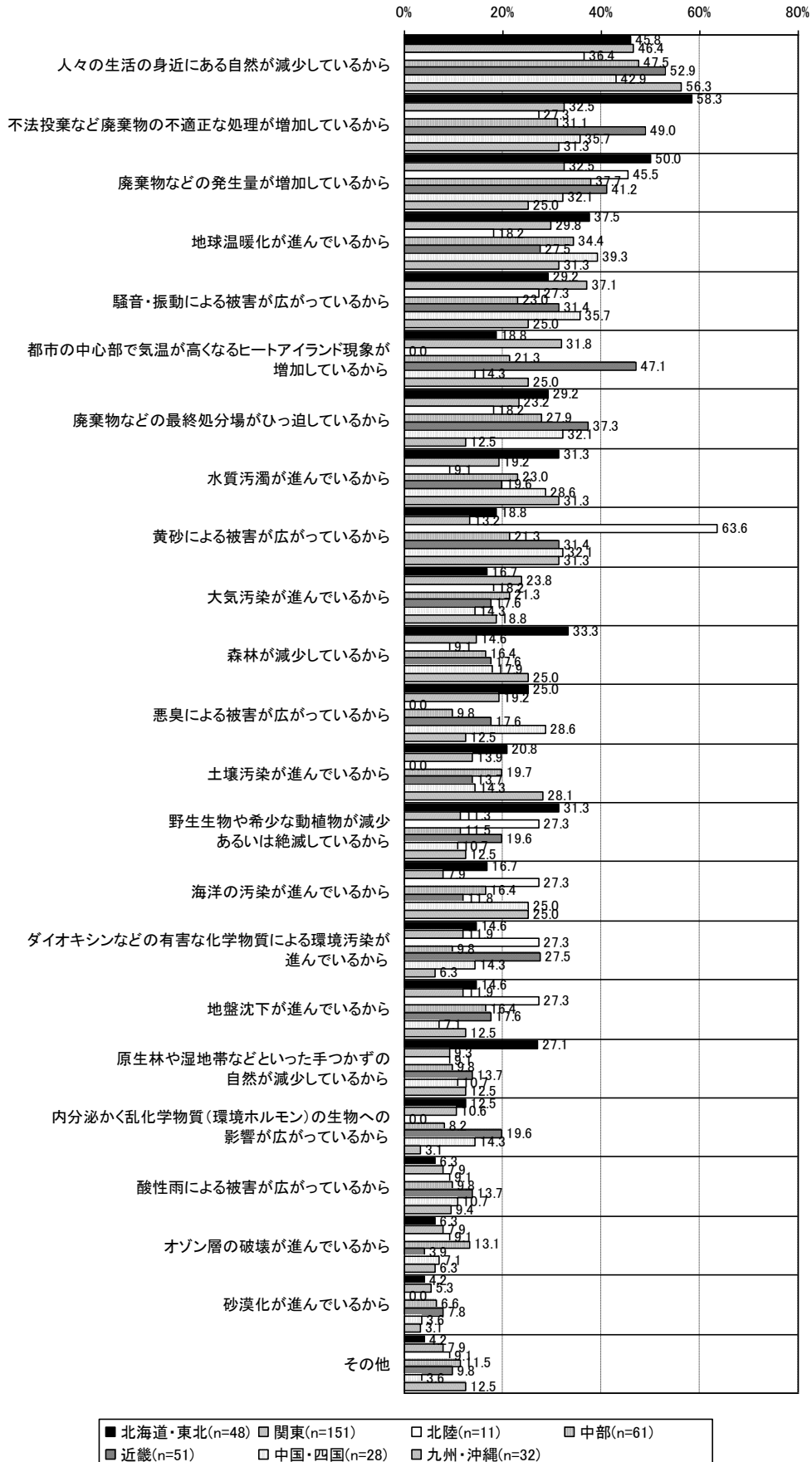
図表 1-12 地域レベルの環境悪化を実感する理由（職業別 1/2）



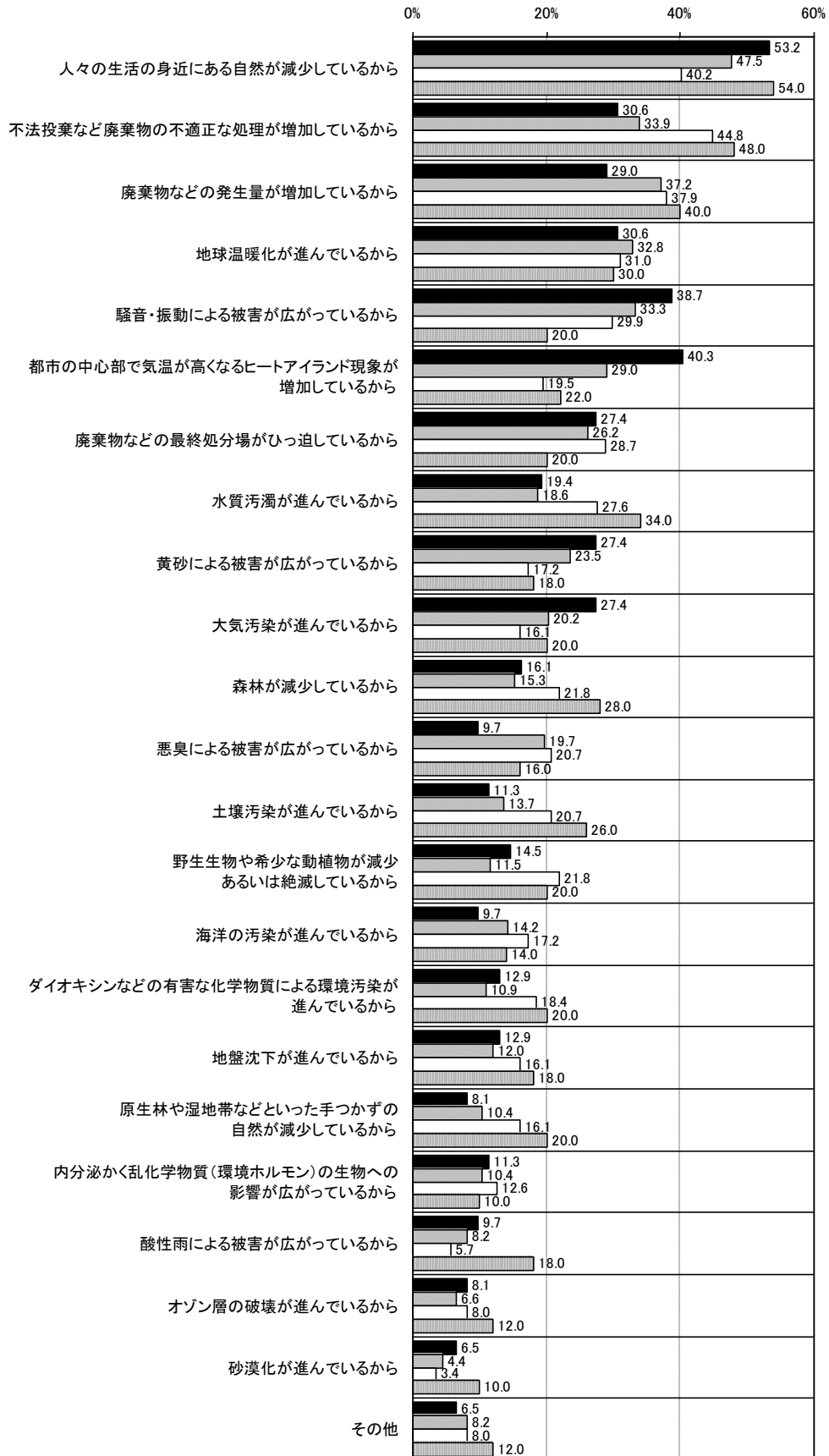
図表 1-13 地域レベルの環境悪化を実感する理由（職業別 2/2）



図表 1-14 地域レベルの環境悪化を実感する理由（地域別）



図表 1-15 地域レベルの環境悪化を実感する理由（都市規模別）



■ 政令指定都市(n=62) □ 10万人以上の市、東京23区(n=183) □ 10万人未満の市(n=87) □ 町村(n=50)

(2) 国レベルの環境悪化を実感する理由

国レベルの環境の状況についての実感について「やや悪化している」「悪化している」と回答した人に、環境悪化を実感する理由を尋ねたところ、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が増加しているから」63%、次いで、「地球温暖化が進んでいるから」53%、「不法投棄など廃棄物の不適正な処理が増加しているから」52%となっている。

性別でみると、「大気汚染が進んでいるから」「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が増加しているから」「廃棄物などの発生量が増加しているから」「ダイオキシンなどの有害な化学物質による環境汚染が進んでいるから」「人々の生活の身近にある自然が減少しているから」で女性が男性よりも5ポイント以上高くなっている。

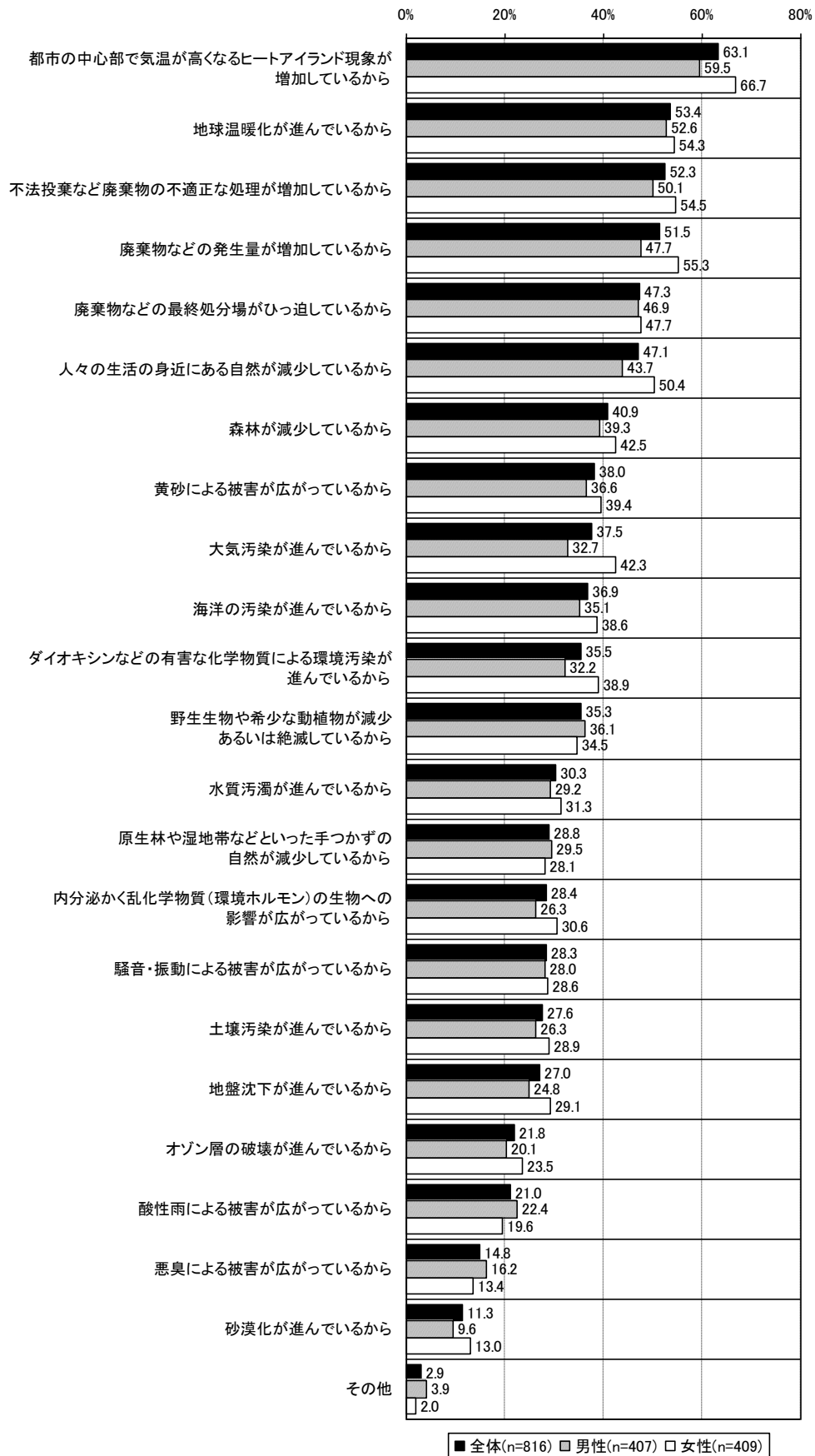
年代別では、70代以上で「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が増加しているから」が74%と最も高くなっている。

職業別では母数が少ない属性があり、誤差が大きいことが予想されるため、コメントは控える。

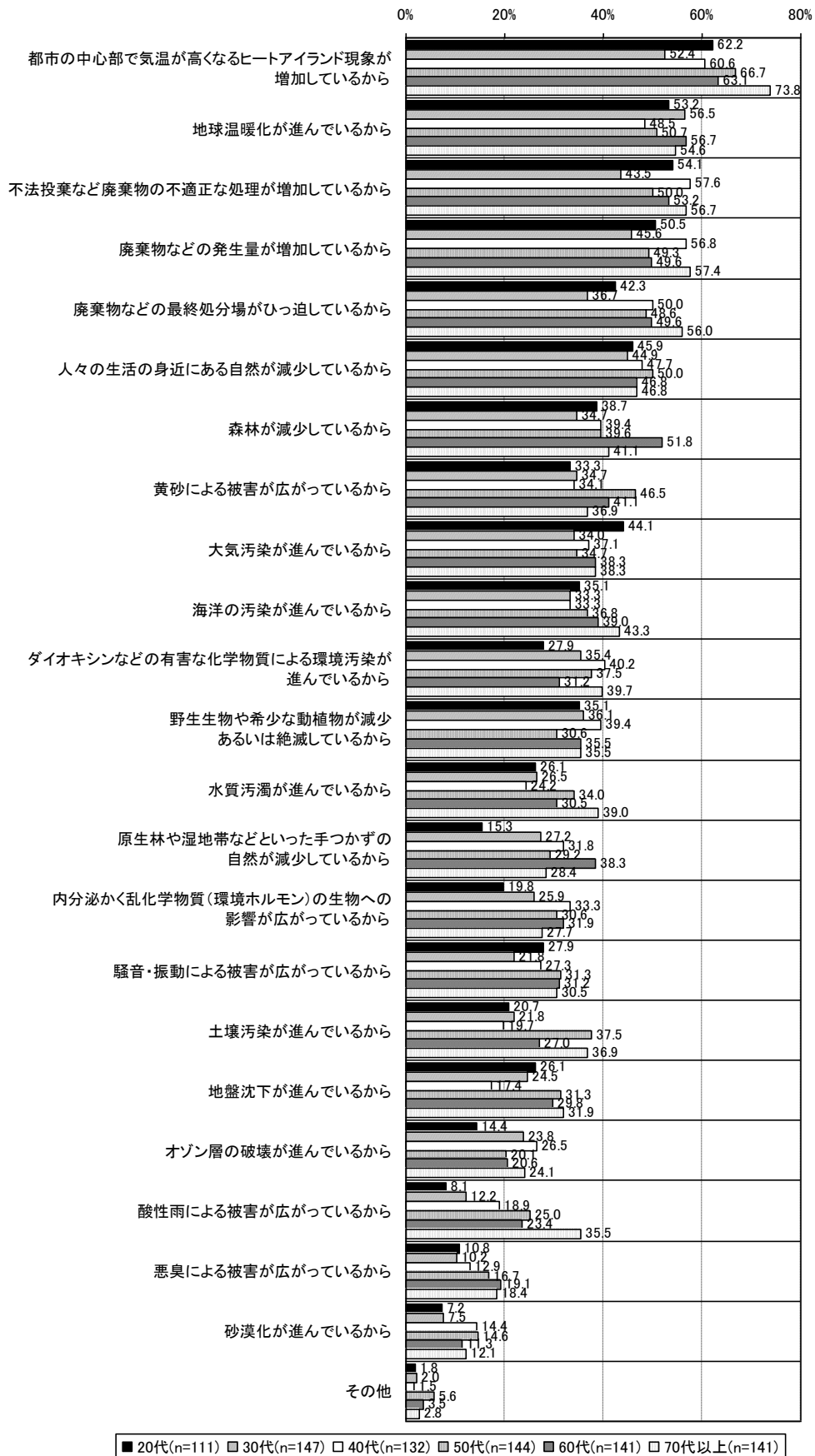
地域別でみると、中国・四国では「騒音・振動による被害が広がっているから」が39%と全体よりも10ポイント以上高くなっている。「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が増加しているから」では多くの地域で最も実感する理由となっているが、北海道・東北では49%と全体よりも10ポイント以上低くなっている。

都市規模別でみると政令指定都市では「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象が増加しているから」「黄砂による被害が広がっているから」「野生生物や希少な動植物が減少あるいは絶滅しているから」「騒音・振動による被害が広がっているから」で全体よりも5ポイント以上高くなっている。町村では多くの項目で全体よりも低い傾向がみられ、特に「廃棄物などの発生量が増加しているから」「土壌汚染が進んでいるから」では全体よりも10ポイント低くなっている。

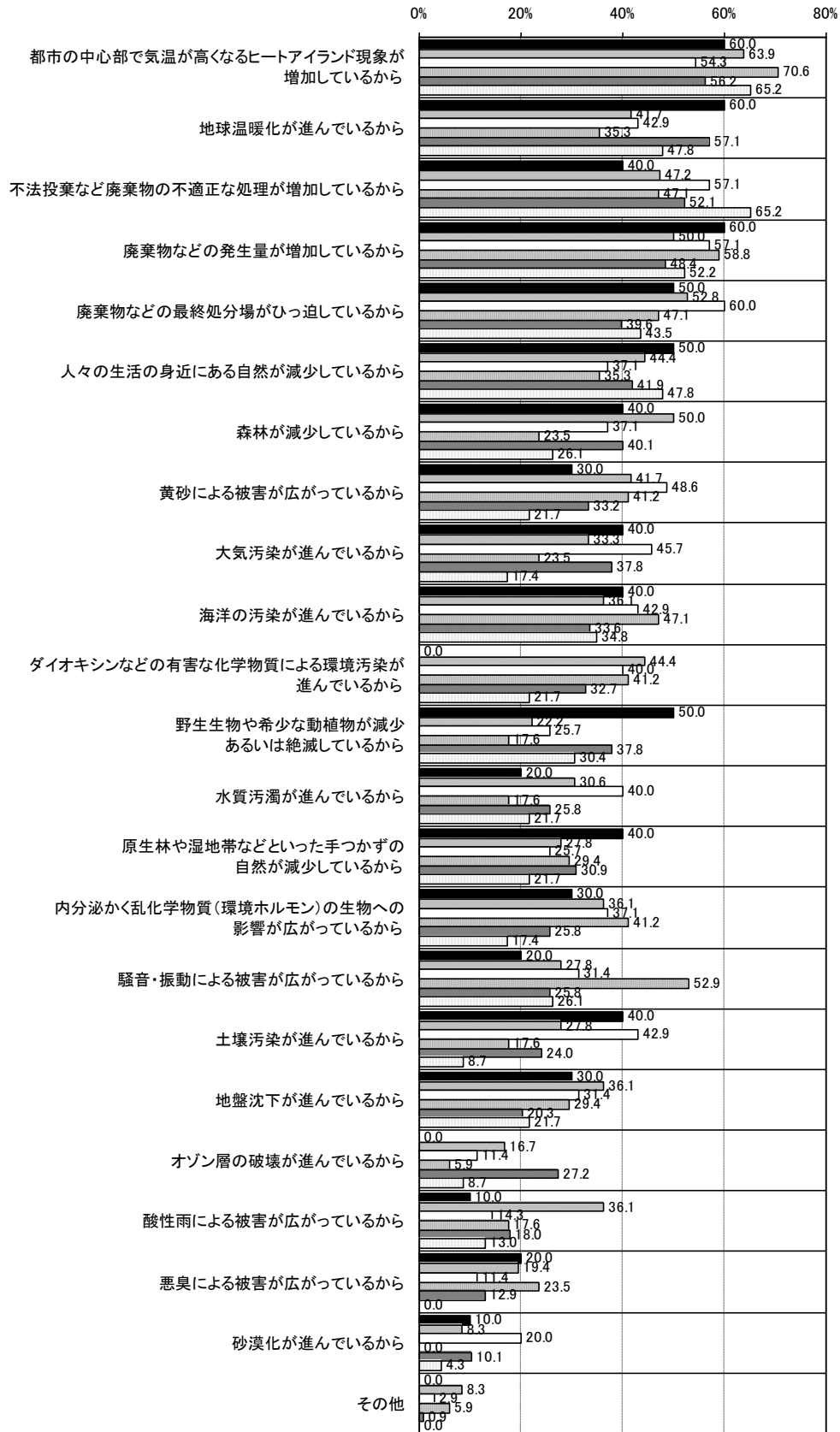
図表 1-16 国レベルの環境悪化を実感する理由（全体、性別）



図表 1-17 国レベルの環境悪化を実感する理由（年代別）

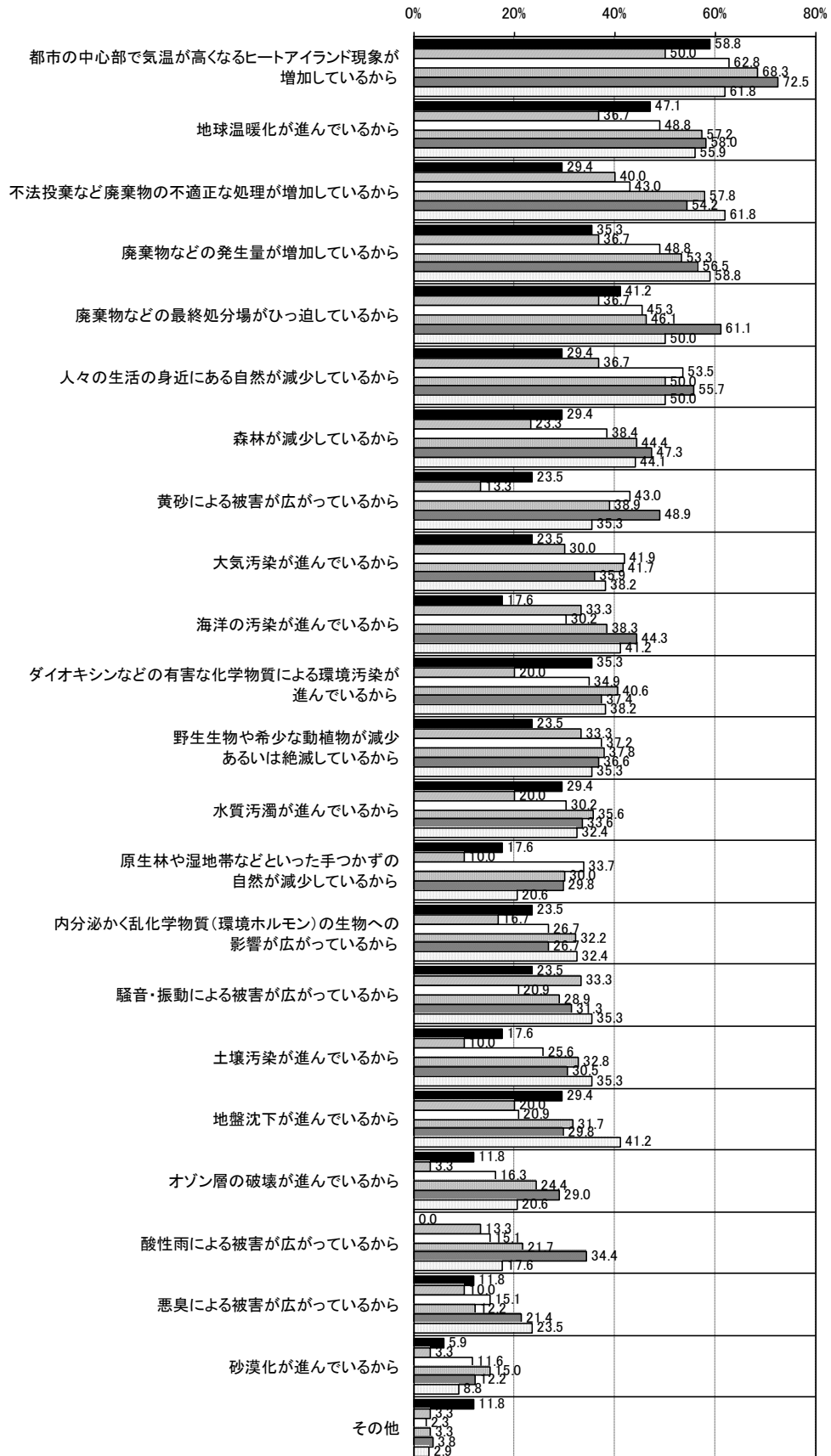


図表 1-18 国レベルの環境悪化を実感する理由（職業別 1/2）



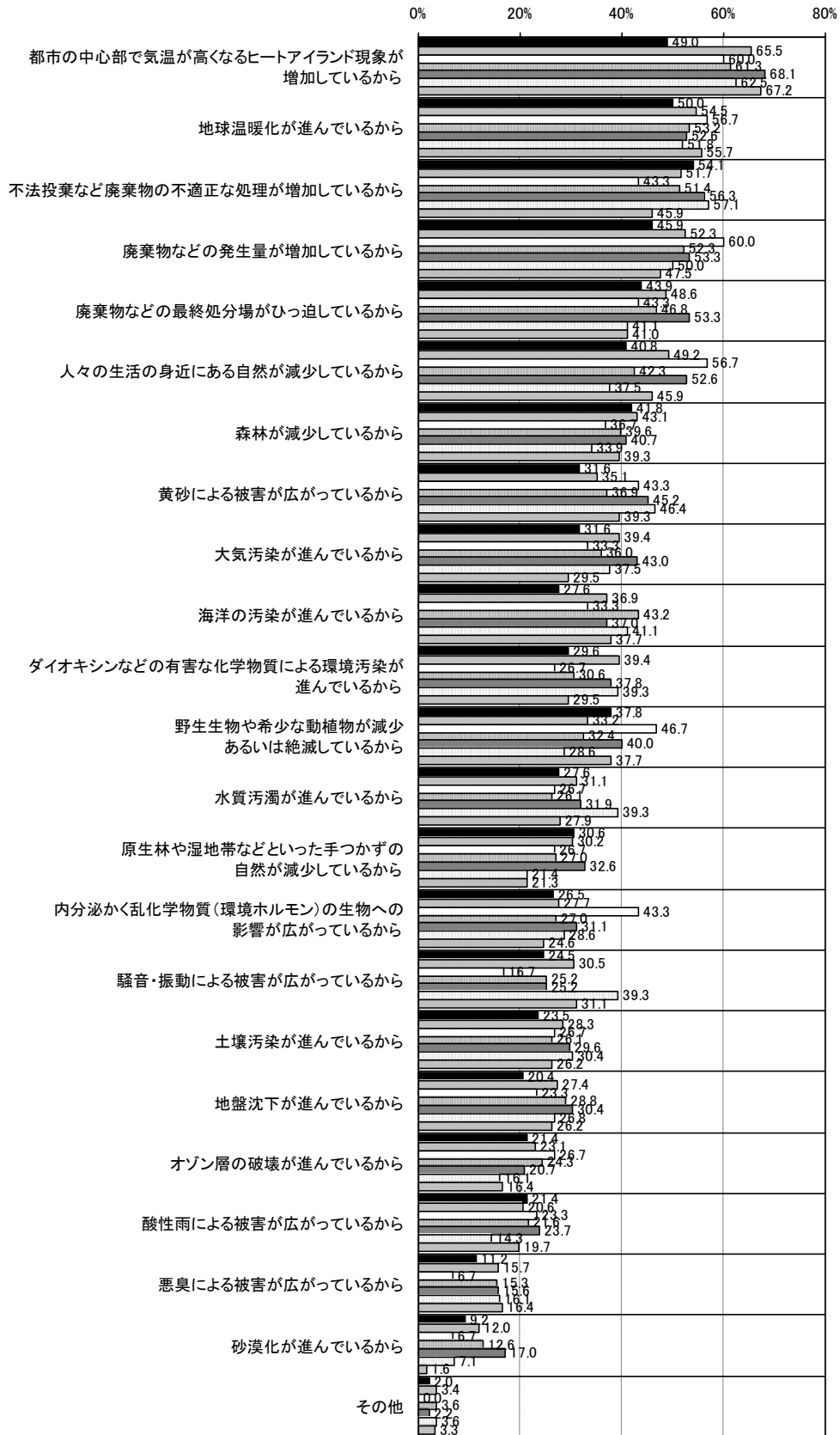
■ 農林漁業(n=10) □ 商工販売サービス業(n=36) □ 自由業(n=35)
 □ 会社役員・会社経営(n=17) ■ 会社員(n=217) □ 公務員(n=23)

図表 1-19 国レベルの環境悪化を実感する理由（職業別 2/2）



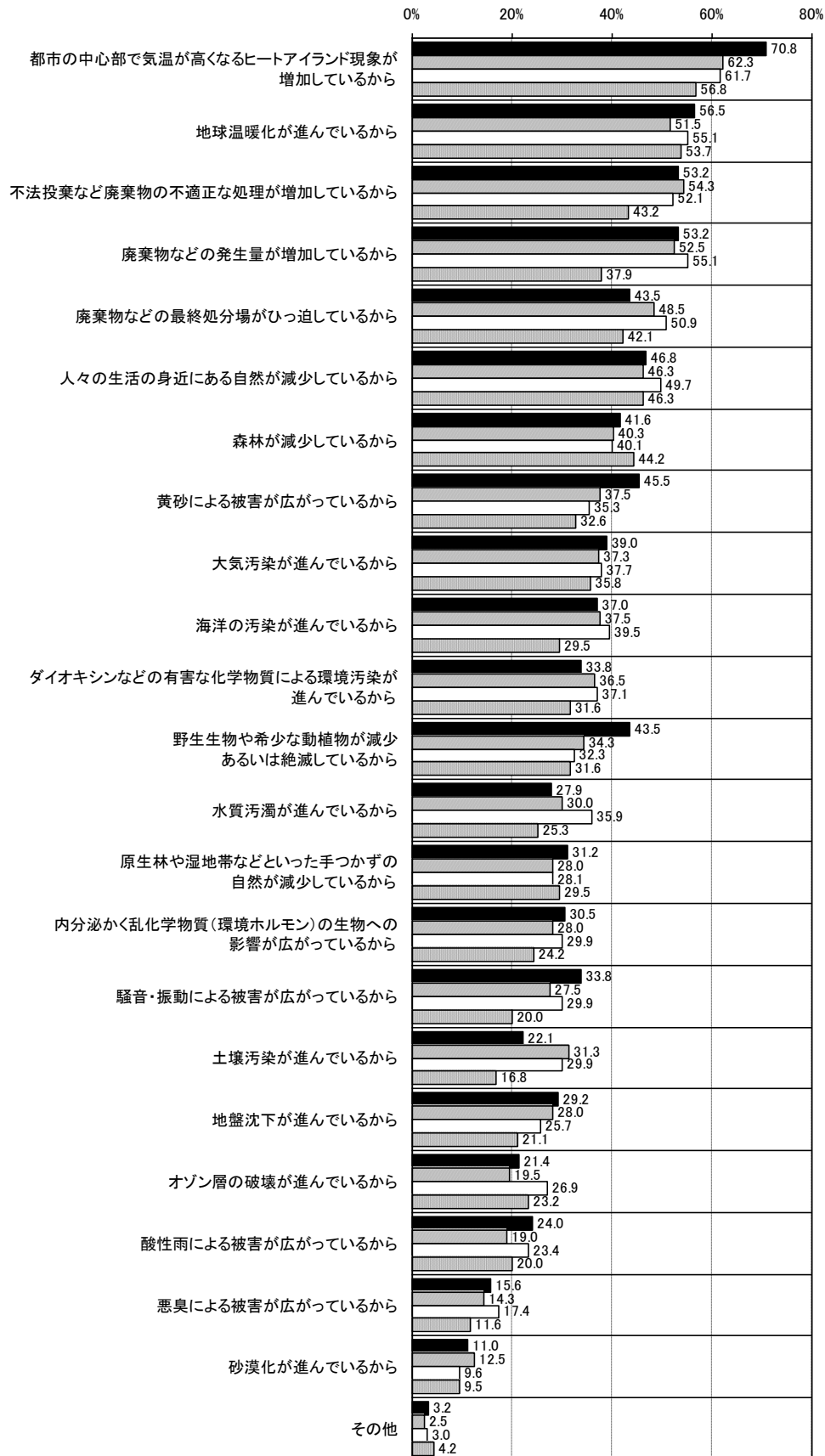
■ 団体制員(n=17) □ 学生(n=30) □ パート・アルバイト(n=86) □ 専業主婦(n=180) □ 無職(n=131) □ その他(n=34)

図表 1-20 国レベルの環境悪化を実感する理由（地域別）



■ 北海道・東北(n=98) □ 関東(n=325) □ 北陸(n=30) □ 中部(n=111)
 ■ 近畿(n=135) □ 中国・四国(n=56) □ 九州・沖縄(n=61)

図表 1-21 国レベルの環境悪化を実感する理由（都市規模別）



■ 政令指定都市(n=154) □ 10万人以上の市、東京23区(n=400) □ 10万人未満の市(n=167) □ 町村(n=95)

(3) 地球レベルの環境悪化を実感する理由

地球レベルの環境の状況についての実感について「やや悪化している」「悪化している」と回答した人に、環境悪化を実感する理由を尋ねたところ、「地球温暖化が進んでいるから」87%、次いで「森林が減少しているから」71%、「オゾン層の破壊が進んでいるから」68%となっている。

性別でみると、「オゾン層の破壊が進んでいるから」「黄砂による被害が広がっているから」「野生生物や希少な動植物が減少あるいは絶滅しているから」で女性が男性よりも10ポイント以上高くなっている。

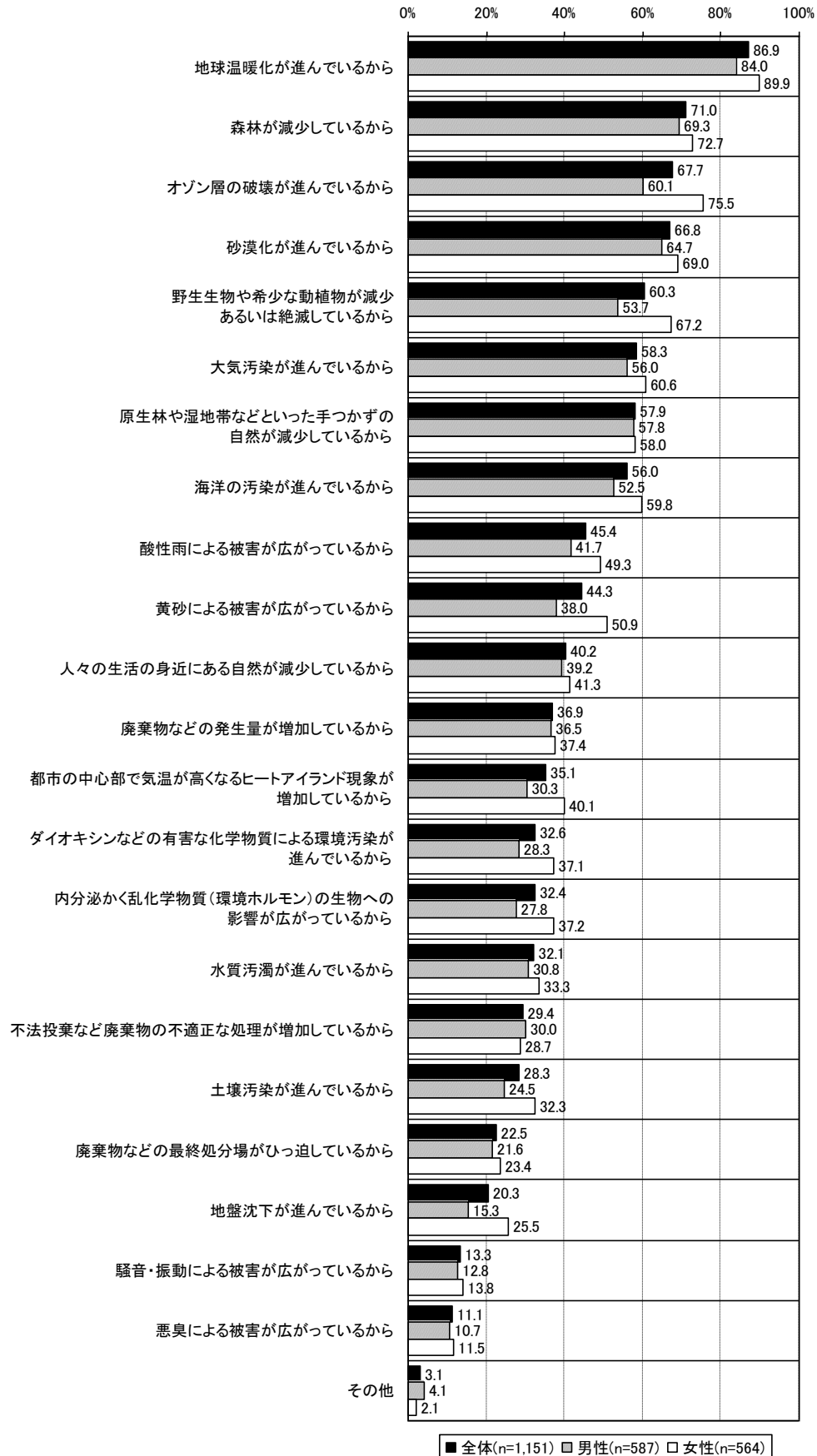
年代別では、「オゾン層の破壊が進んでいるから」で50代が80%と全体よりも10ポイント以上高く、反対に20代、30代では60%と全体よりも5ポイント低くなっている。

職業別では母数が少ない属性があり、誤差が大きいことが予想されるため、コメントは控える。

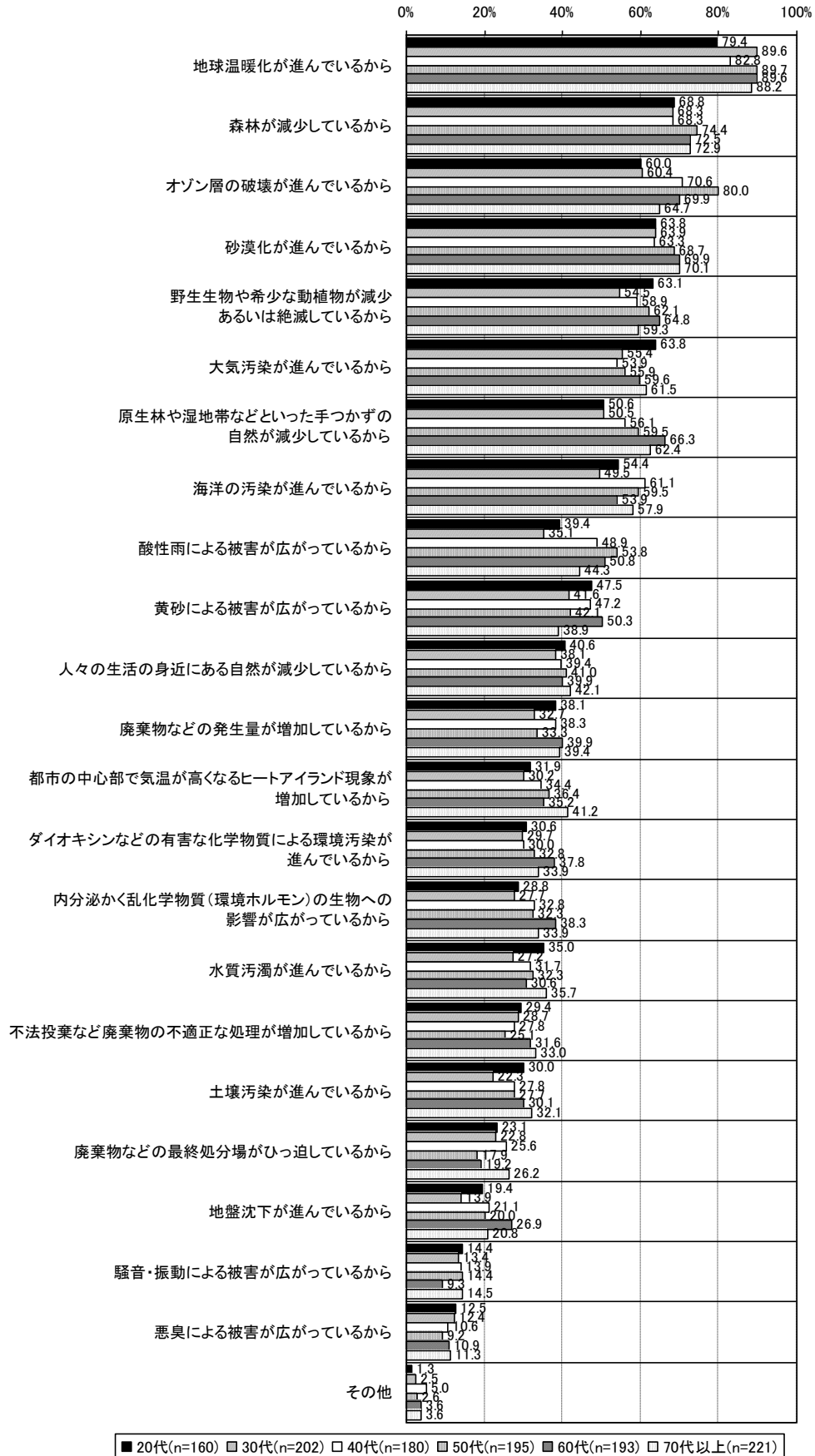
地域別でみると、「森林が減少しているから」では関東が76%と全体よりも5ポイント以上高く、北海道・東北、中部、九州・沖縄では全体よりも5ポイント以上低くなっている。

都市規模別でみると、町村では「地球温暖化が進んでいるから」が93%と全体よりも5ポイント以上高く、政令指定都市では「野生生物や希少な動植物が減少あるいは絶滅しているから」「黄砂による被害が広がっているから」が全体よりも5ポイント以上高くなっている。

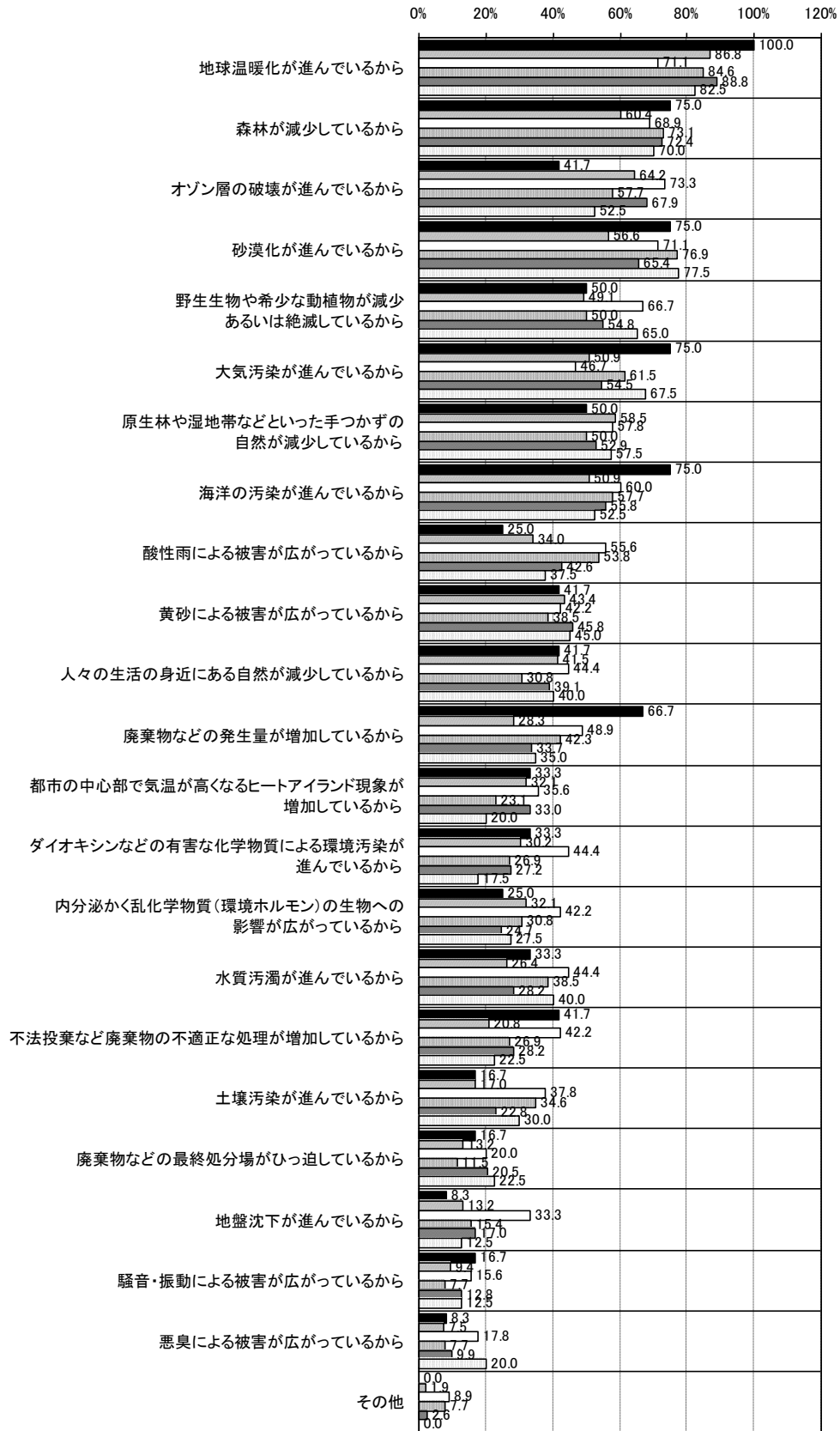
図表 1-22 地球レベルの環境悪化を実感する理由（全体、性別）



図表 1-23 地球レベルの環境悪化を実感する理由（年代別）

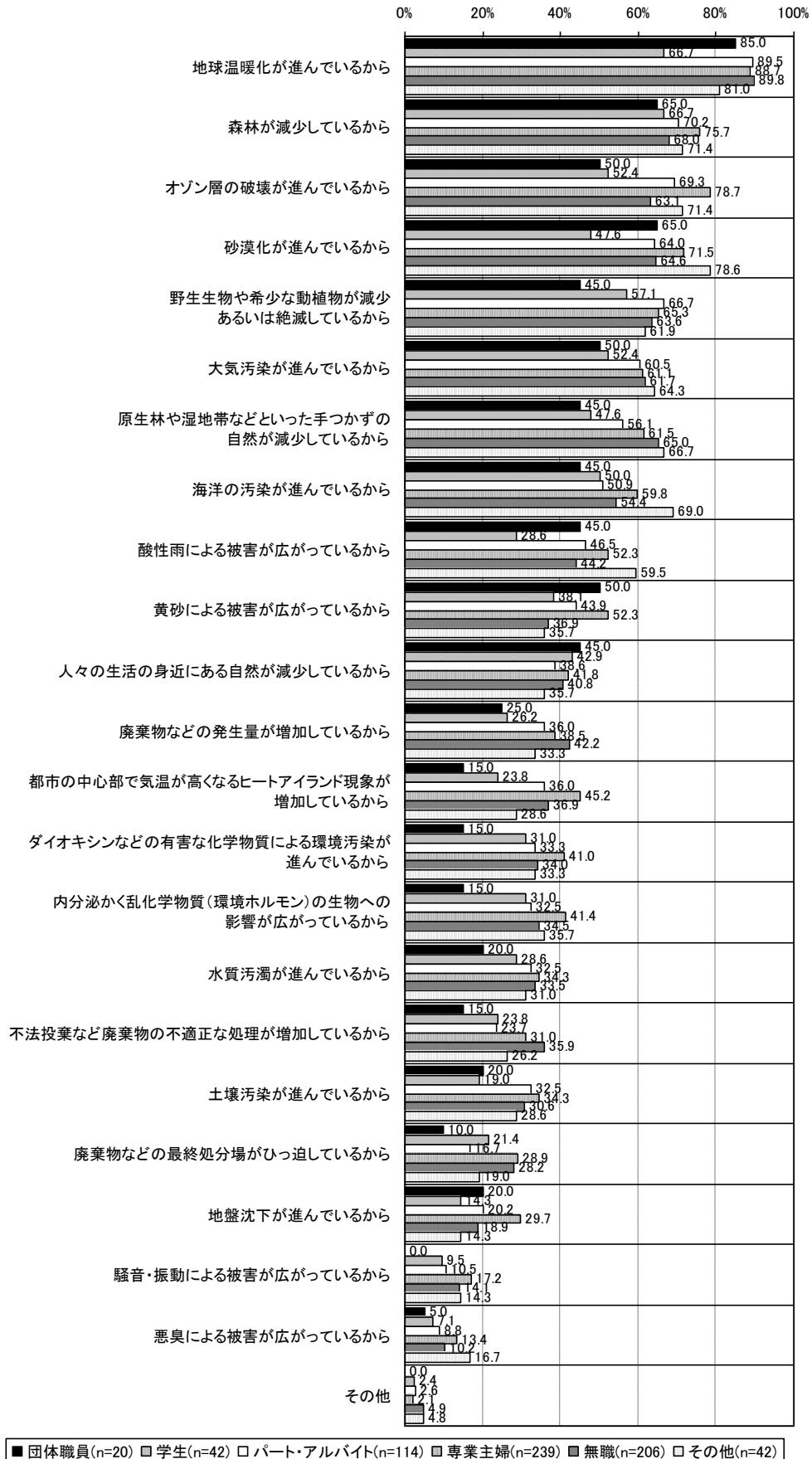


図表 1-24 地球レベルの環境悪化を実感する理由（職業別 1/2）

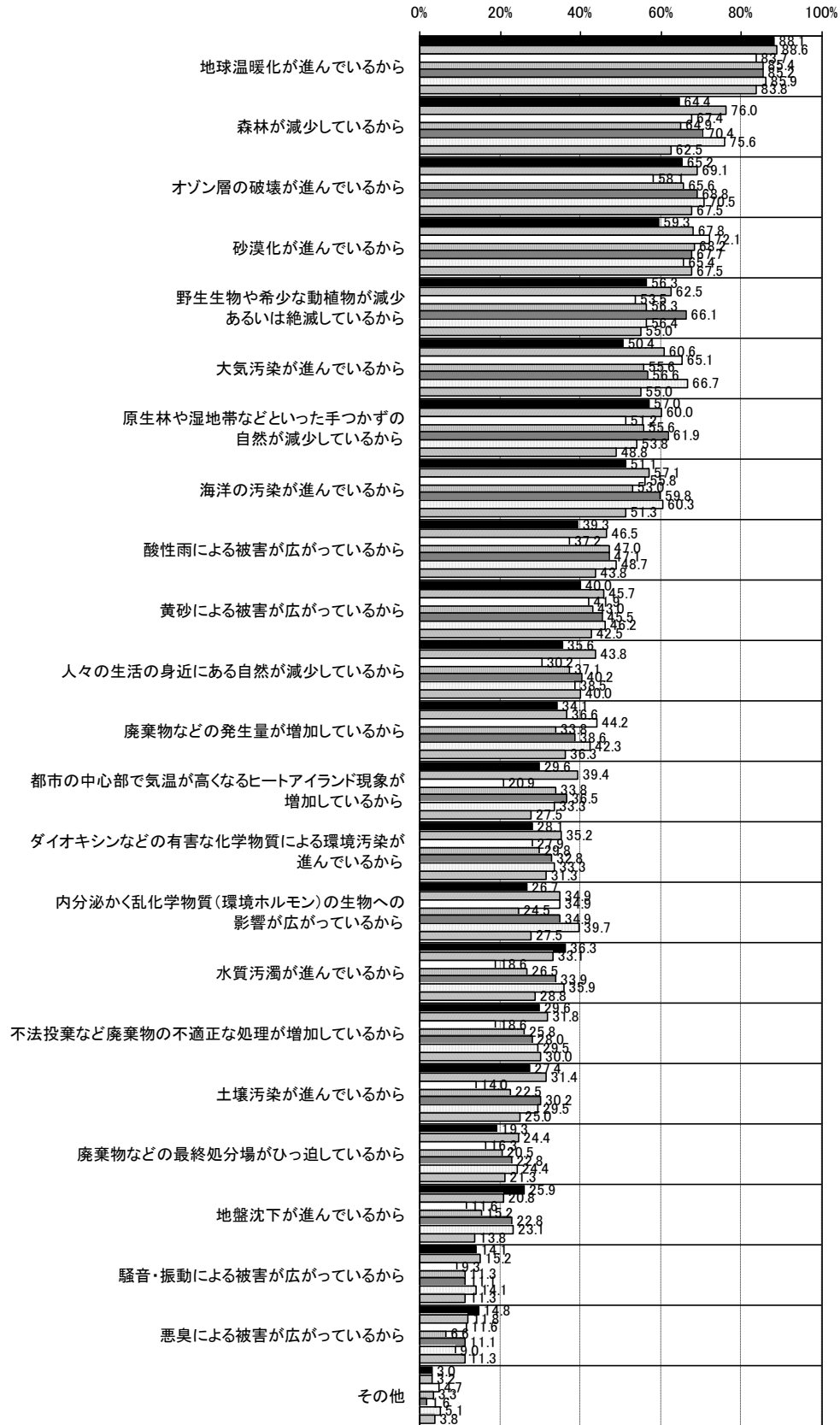


■ 農林漁業(n=12) □ 商工販売サービス業(n=53) □ 自由業(n=45)
 □ 会社役員・会社経営(n=26) ■ 会社員(n=312) □ 公務員(n=40)

図表 1-25 地球レベルの環境悪化を実感する理由（職業別 2/2）

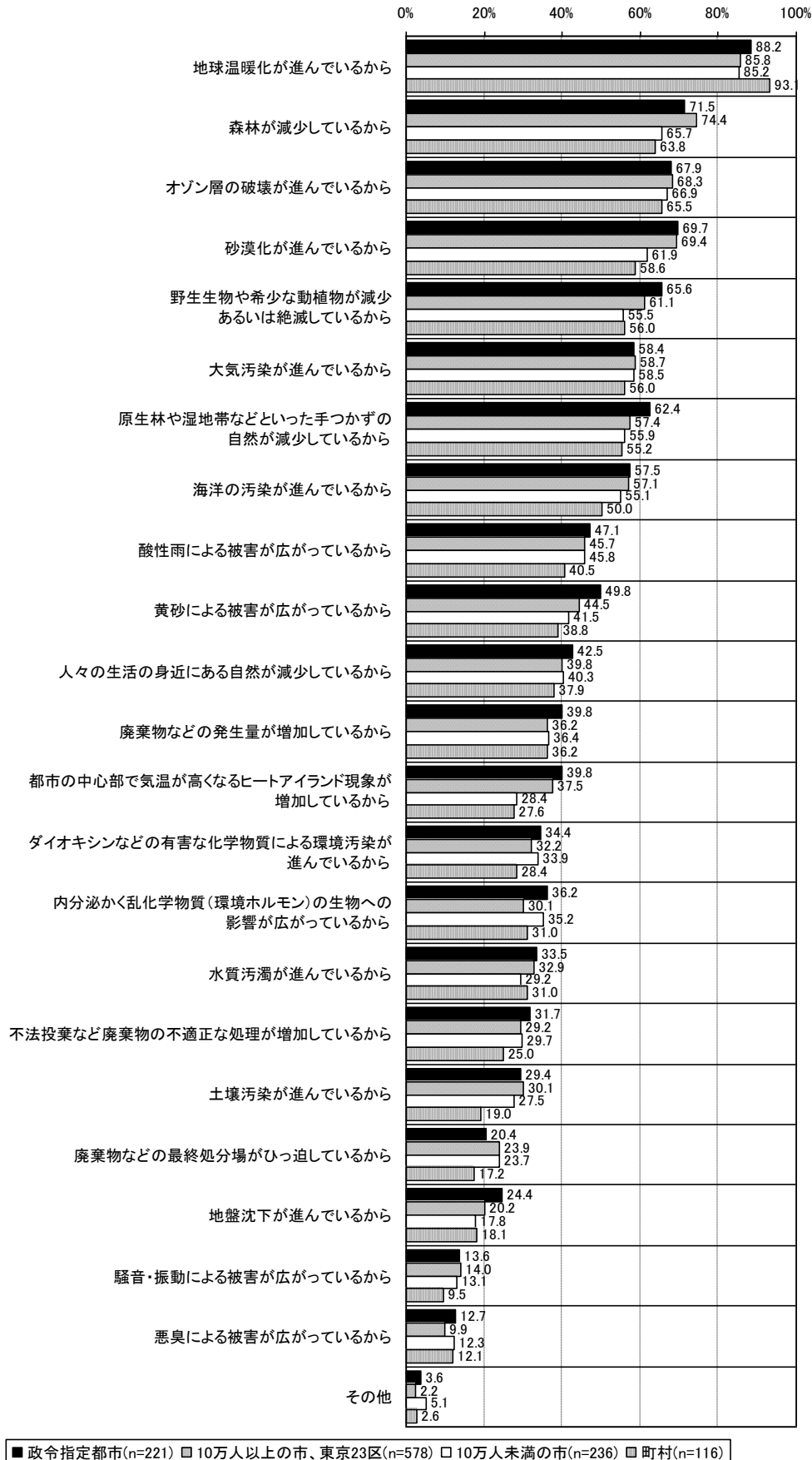


図表 1-26 地球レベルの環境悪化を実感する理由（地域別）



■ 北海道・東北(n=135) □ 関東(n=475) □ 北陸(n=43) □ 中部(n=151)
 ■ 近畿(n=189) □ 中国・四国(n=78) □ 九州・沖縄(n=80)

図表 1-27 地球レベルの環境悪化を実感する理由（都市規模別）



1-3 関心のある環境問題(問 1-3)

関心のある環境問題は79%の人が「地球温暖化」と回答している。次いで、「森林の減少」47%、「オゾン層の破壊」43%となっている。

関心のある環境問題については、「地球温暖化」79%が最も関心が高く、次いで、「森林の減少」47%、「オゾン層の破壊」43%、「大気汚染」40%、「野生生物や希少な動植物の減少や絶滅」38%となっている。反対に関心の低い項目は、「騒音・振動」16%、「地盤沈下」14%、「悪臭」10%であった。

平成20年度調査と比較すると、「地球温暖化」と「砂漠化」で若干関心度が下がっているが、それ以外の項目では関心度が高くなっている。

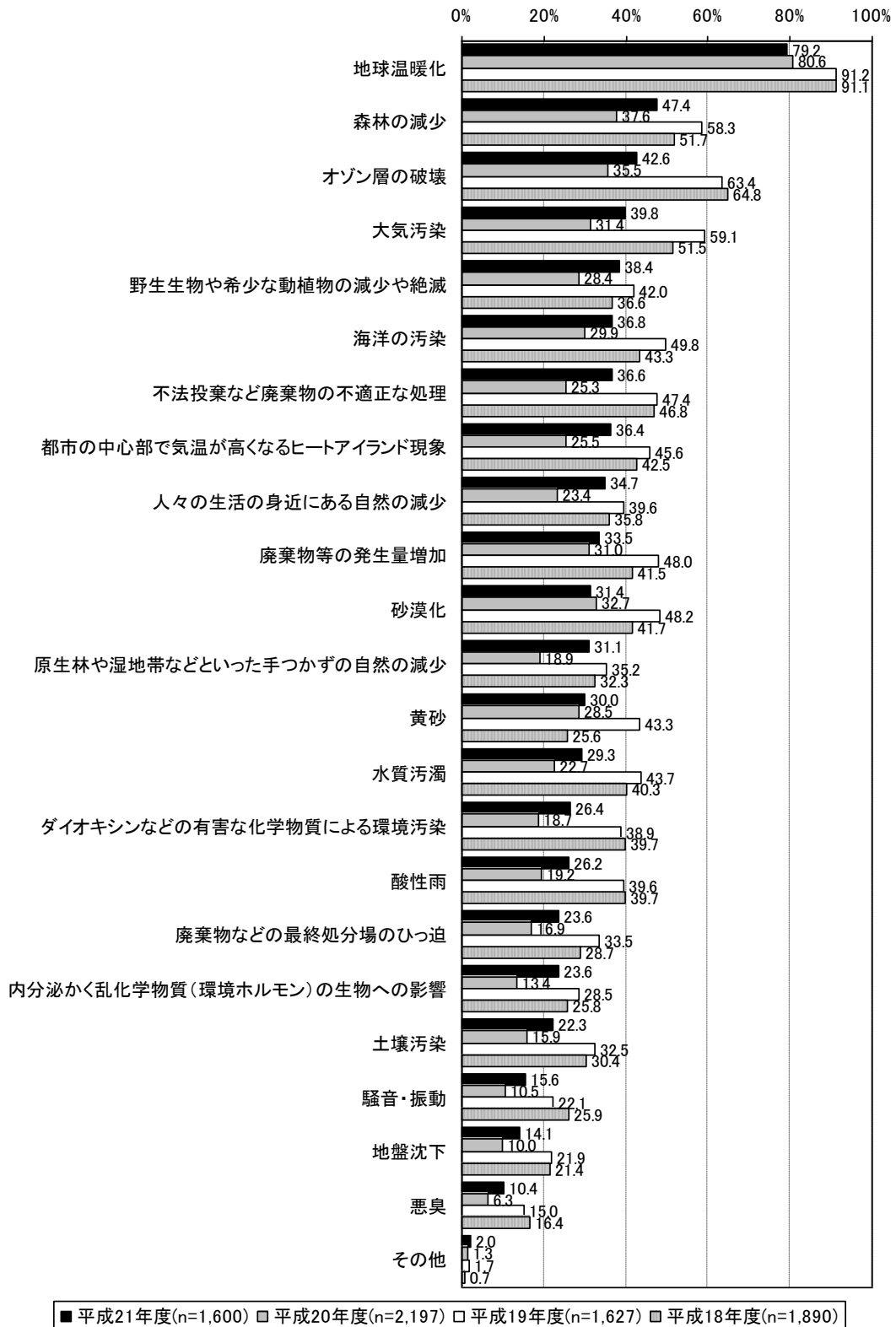
性別でみると、女性の方が男性よりも関心が高い項目が多く、「ダイオキシンなどの有害な化学物質による環境汚染」、「内分泌かく乱化学物質（環境ホルモン）の生物への影響」、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象」で女性の方が男性よりも5ポイント以上高くなっている。

年代別では、60代、70代以上の人が多く、多くの項目に対して関心が高い傾向がみられる。特に「大気汚染」では70代以上で51%と全体よりも10ポイント以上高くなっている。

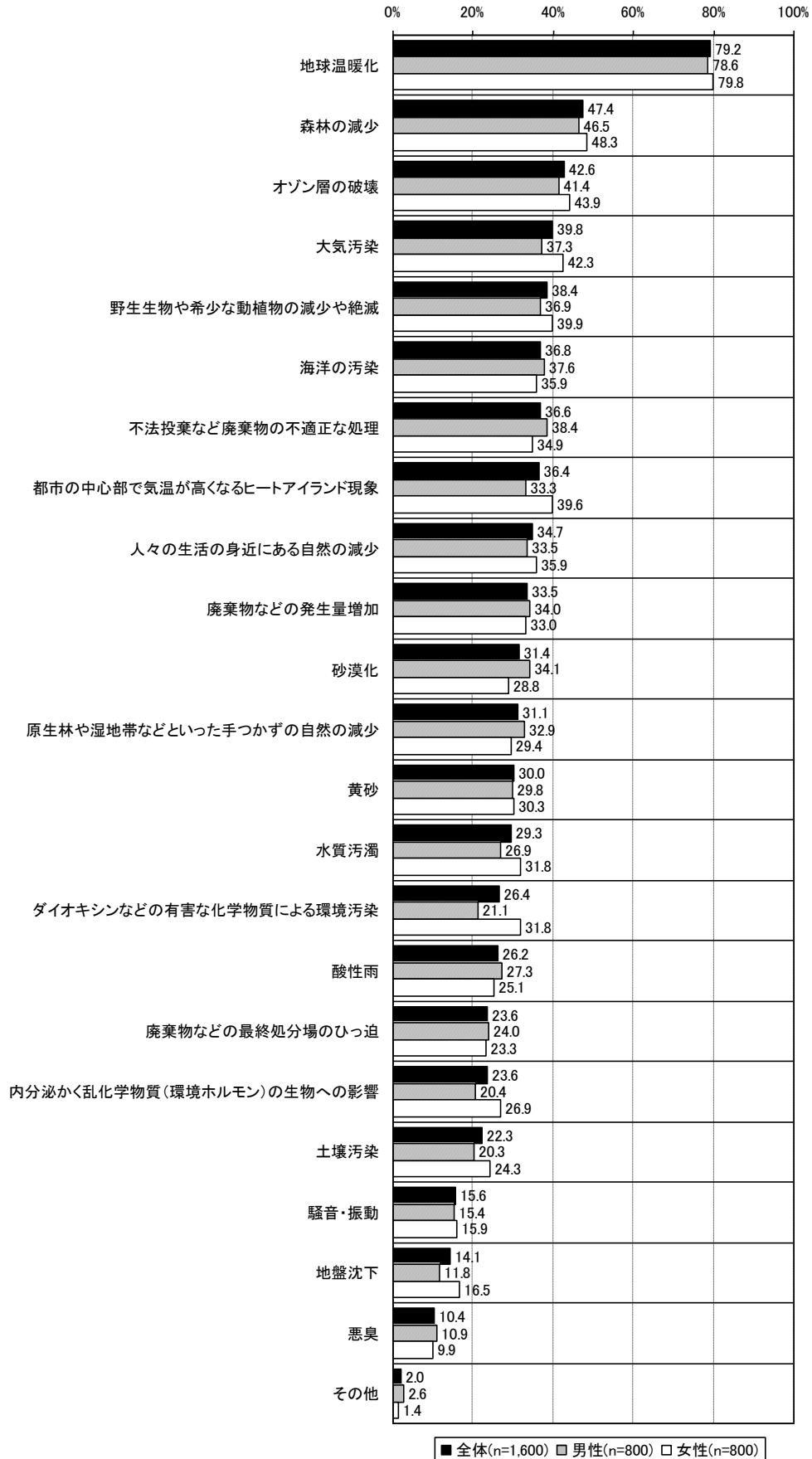
地域別でみると、「黄砂」は北陸、九州・沖縄で全体よりも10ポイント以上高く、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象」は関東で関心が高くなっている。

都市規模別でみると、関心の高い項目で大きな差はみられないが、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象」では、政令指定都市が43%と高く、10万人未満の市、町村では30%以下となっている。

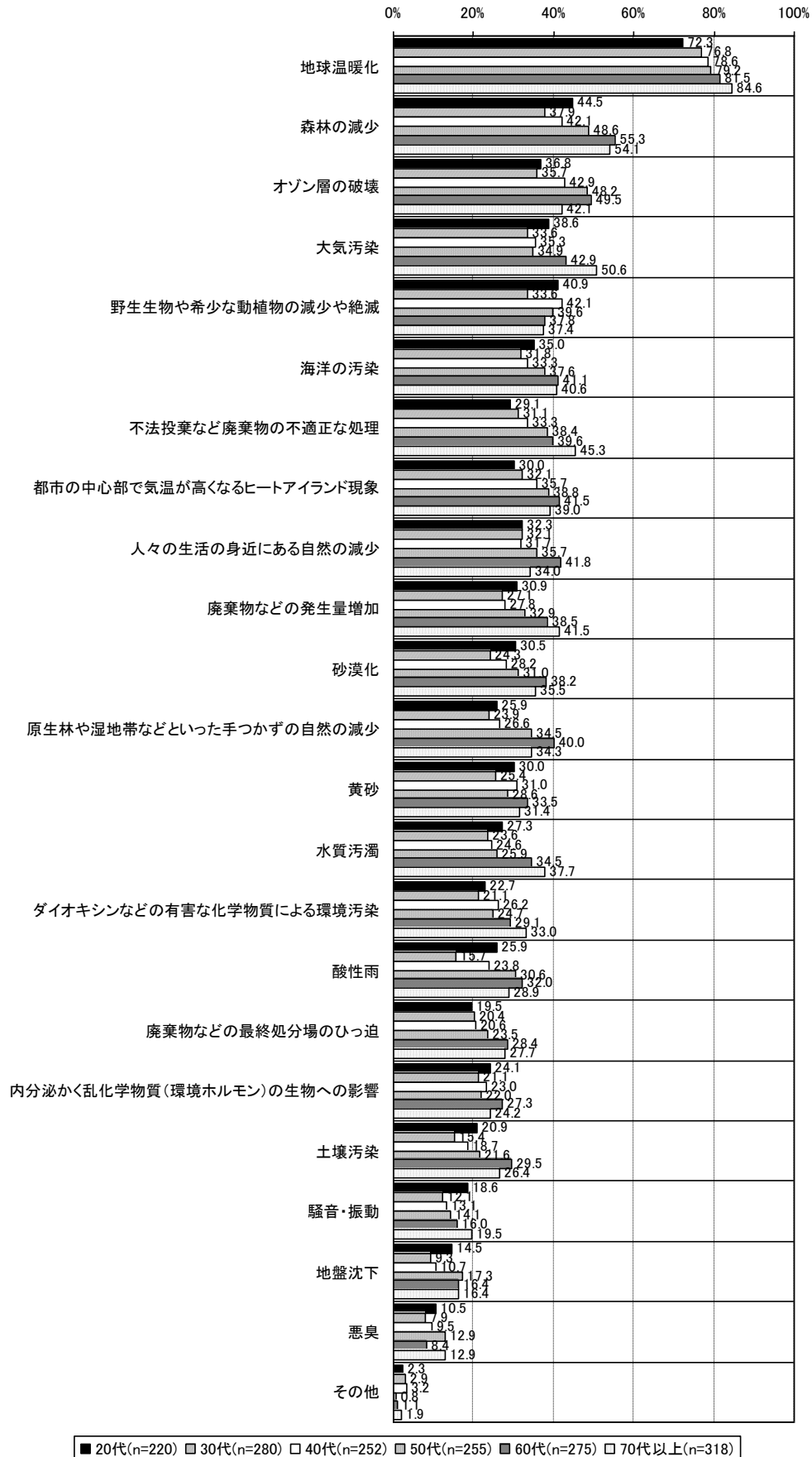
図表 1-28 関心のある環境問題(時系列)



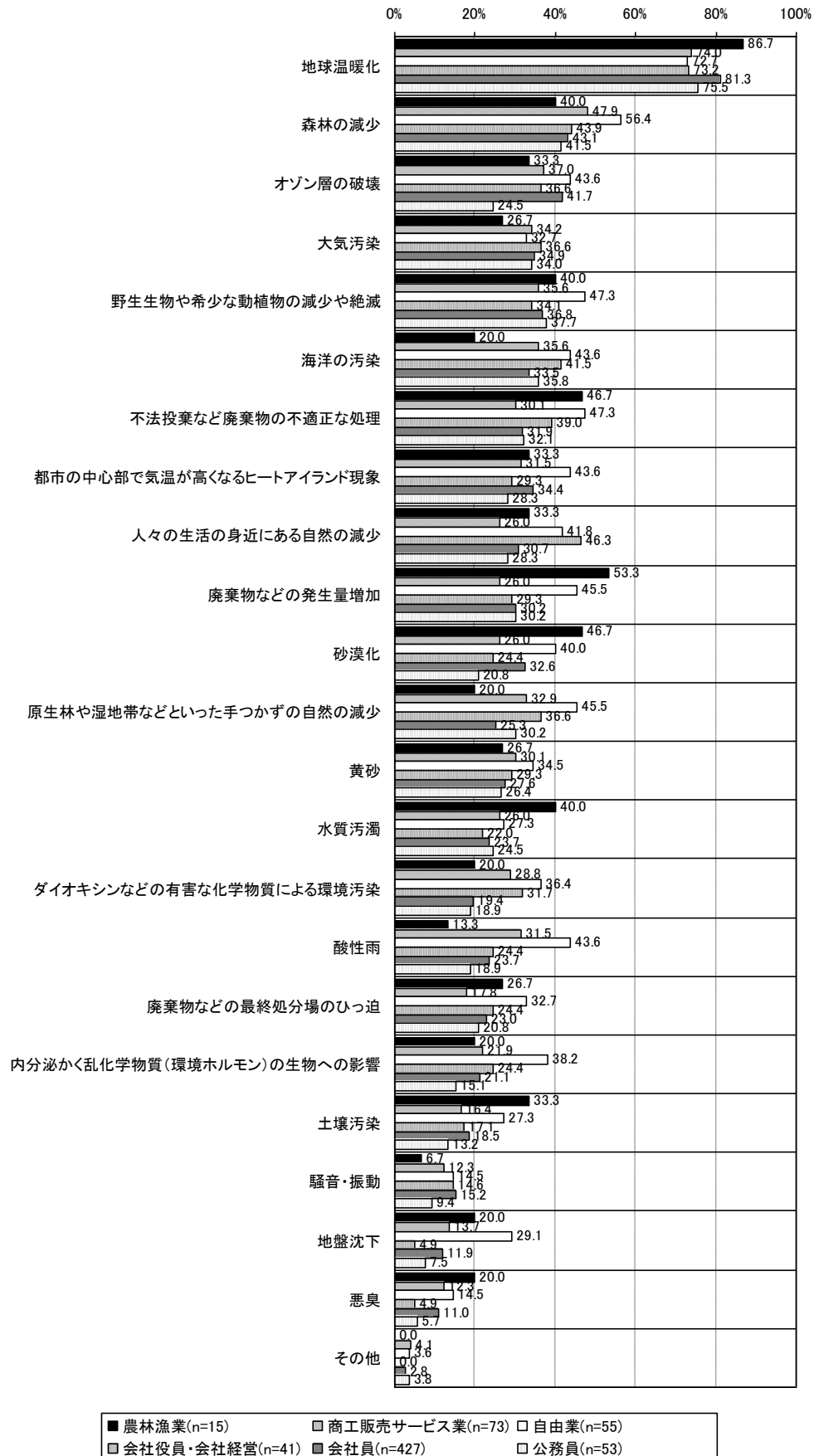
図表 1-29 関心のある環境問題（全体、性別）



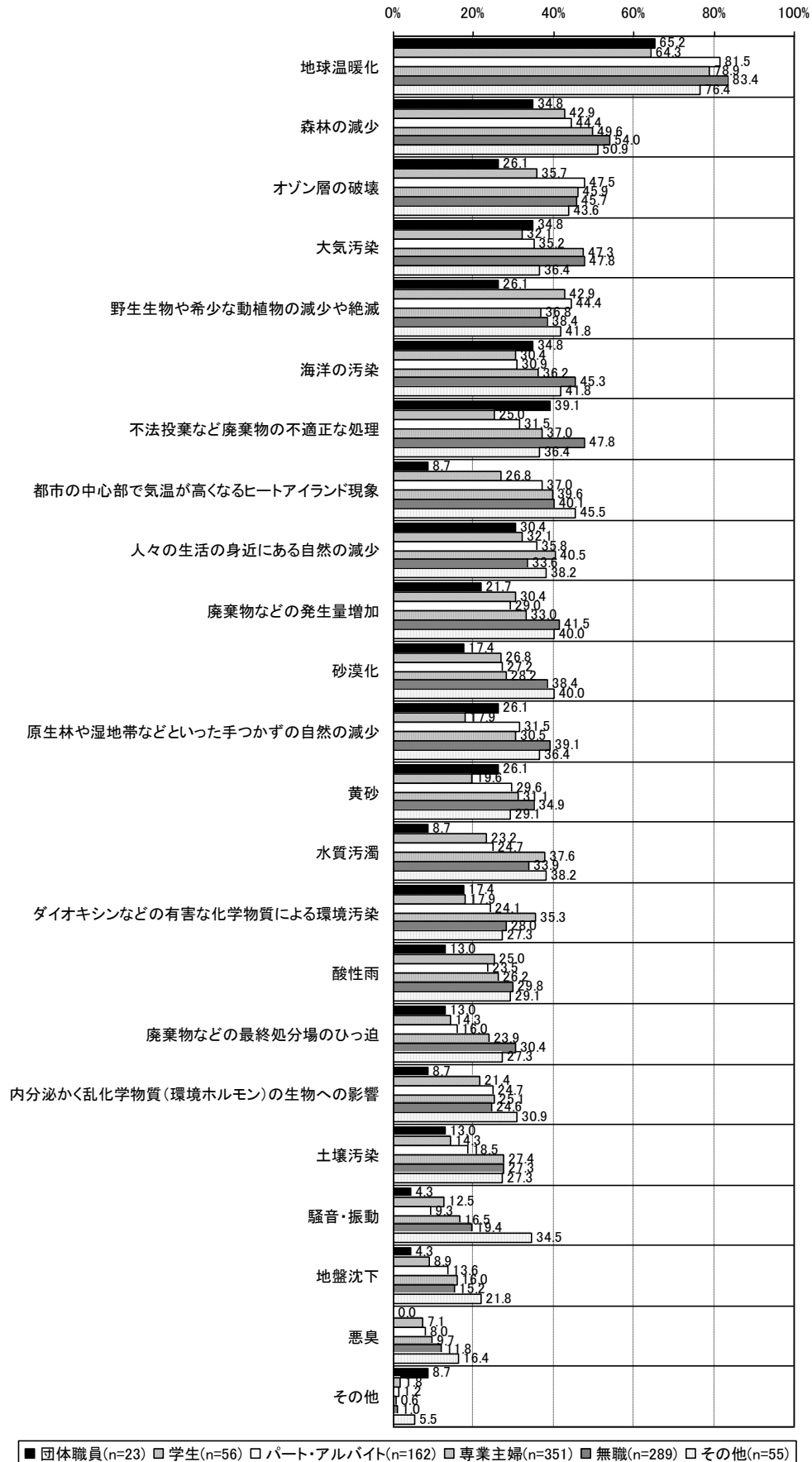
図表 1-30 関心のある環境問題（年代別）



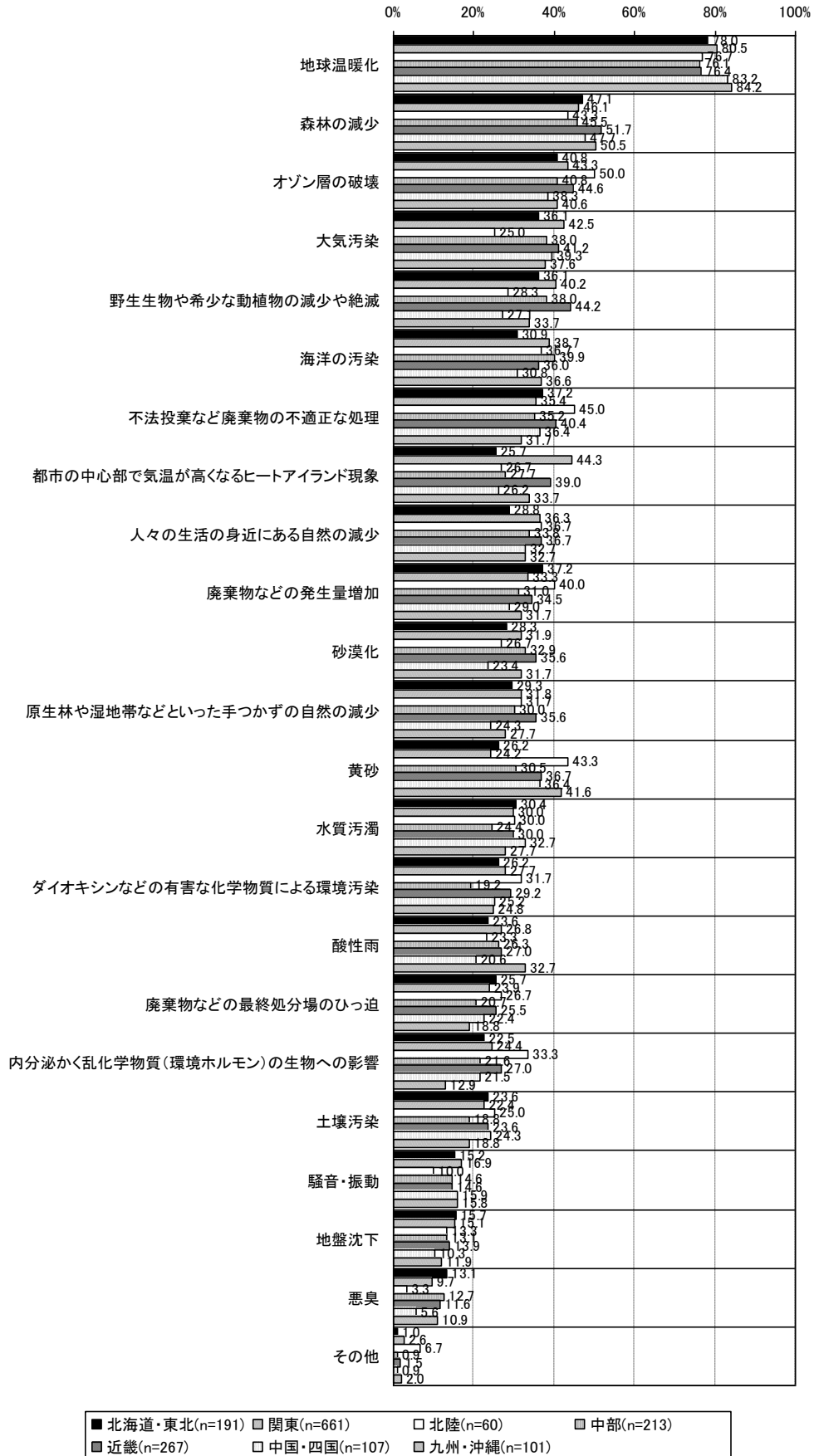
図表 1-31 関心のある環境問題（職業別 1/2）



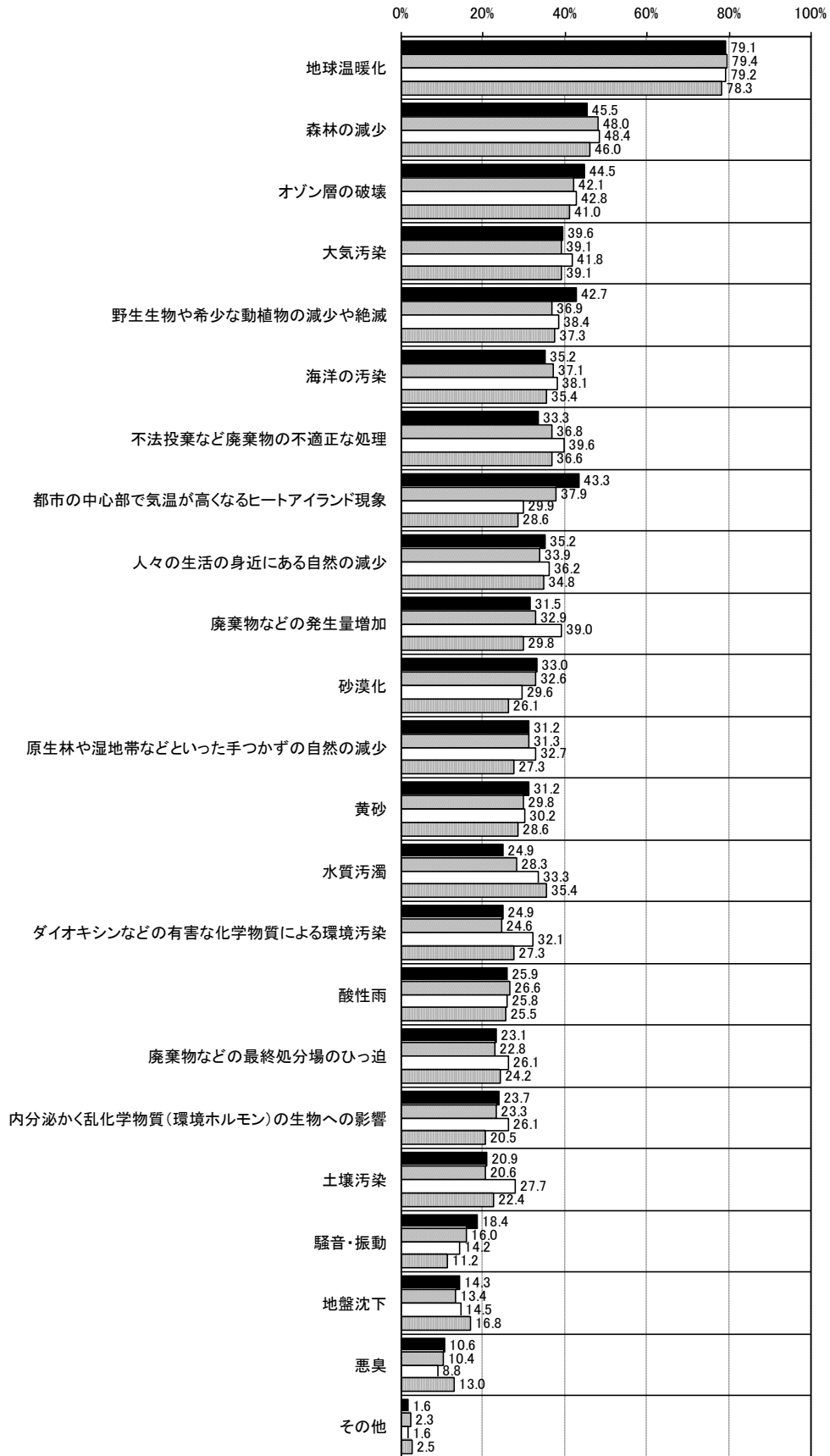
図表 1-32 関心のある環境問題（職業別 2/2）



図表 1-33 関心のある環境問題（地域別）



図表 1-34 関心のある環境問題（都市規模別）



■ 政令指定都市(n=321) □ 10万人以上の市、東京23区(n=800) □ 10万人未満の市(n=318) □ 町村(n=161)